

西南学院大学博物館事業報告 I

# 大学博物館連携事業

—官学・産官学連携事業実践報告



## 目次

---

1. 大学博物館連携	5
本事業の趣旨	
大学博物館共同企画シリーズの実施と効果	
成果と課題	
事業紹介	
2. 地域博物館連携	20
本事業の趣旨	
九州のキリスト教シリーズの実施と効果	
成果と課題	
事業紹介	
3. 産官学連携事業	30
事業趣旨	
事業紹介	
4. ミュージアムセッション I	38
付録 大学博物館調査一覧	59







# 1. 大学博物館連携

## 本事業の趣旨

西南学院大学博物館では2011年度秋季特別展から大学博物館共同企画シリーズを実施している。2014年度までに4回の特別展を開催しており、これまでの実績をもとに成果と課題を下記に提示していく。それに先立ち、本企画の趣旨を挙げておきたい。

大学博物館共同企画シリーズは、第一に、大学が長年、収集・蓄積してきた学術標本を、効果的かつ広範囲に公開することを目的としている。大学には開学以来、数多くの教職員が在籍し、多様な研究をおこなっている。研究過程のなかで“モノ”が学術標本となり、多くの資料が創出される。こうした専門研究のもと価値が見出された学術標本を、一般にわかりやすく公開するためには、学芸員の立場で展示する必要がある。まさに、研究成果の発信拠点として大学博物館が必要なのであり、中長期的計画のもと、展示と教育普及事業をおこなっていかなくてはならない。

こうした事業をおこなってきたことによって、近年、来館者層も広がってきた。これにともない博物館への要望なども高くなってきている現状がある。これに応えるため、大学博物館同士が協働することで新たなテーマや意義を創出することを目指して、本事業をおこなっている。大学博物館連携のひとつのあり方は、資料的価値を生み出し、さらなる研究の進展、そして、来館者への知的還元を目的としているのである。

第二に大学博物館のPRもある。各大学で博物館の設置が相次いでいることもあって、近年知名度も向上してきた。また、オープンキャンパスや学校案内などで、大学博物館が見学コースに組み込まれることもあり、大学博物館が大学の広報的役割を負っている側面が大きくなってきている。また、広く開放されている性格上、卒業生をはじめとする学外者が気軽に立ち寄れる環境となっており、大学博物館はまさに“大学の顔”となっている。つまり、共同開催することによって、広域な広報活動につながることをいえる。

大学博物館の存在が認識されるようになってまだ日が浅いのが現実である。いかに多くの人にその活動が周知されるのか。自館による単館活動が基本原則ではあるが、複数館による共同事業をおこなうことで、関係機関への告知はもとより、活動の質的向上にもつながる。これが結果的に、来館者サービスにもつながっていく。“社会に開かれた大学の窓口”として大学博物館が機能していくためには、大学博物館活動の質的向上が今後必要となってくる。担当する教員や学芸員の研究水準の向上とともに、博物館教育としての成果還元を意識した取り組みを大学博物館はおこなっていかなくてはならない。

## 大学博物館共同企画シリーズの実施と効果

西南学院大学博物館が開催してきた大学博物館共同企画シリーズは下記に示すとおりである。これまで4回実施してきたが、全てに共通していることは共通テーマを設定し、展覧会に関連した講演会を開催していることである。博物館である以上、展示を基本とした取り組みが原則である。テーマに見合った資料を借用し、名品展とは一線を画すものとした。名品展は各大学の特徴を示す一過性の企画としては有効であるが、シリーズ化した事業としては展覧会の質的向上にはつながらない。そのため、連携先の担当者と話し合いを重ねたうえでテーマを設置し、展示資料を選定していった。

1回目の「アイコン」展では、本学博物館のみで展覧会を開催し、玉川大学教育博物館から講師を

## 大学博物館共同企画シリーズ

	展覧会名	連携校	会期	入館者
1	イコン—東西聖像画の世界—	玉川大学教育博物館	2011.11.02～12.10	2,407人
2	閉ざされた島 開かれた海 —鎖国のなかの日本—	神戸大学海事博物館	2012.06.02～08.04	4,488人
3	日本信仰の源流とキリスト教 —受容と展開、そして教育—	國學院大學博物館	2013.11.01～12.21	1,594人
4	海路 —海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—	神戸大学海事博物館・ 梅光学院大学博物館	2014.06.16～08.30	3,250人

派遣していただいたが、2回目以降は連携した大学博物館でも展覧会を巡回する形態をとった。巡回展という形をとったのは、前述したように、少しでも多くの人に大学が所蔵する資料を公開すること。研究成果の広域発信、さらには、大学の広報的活動の意味合いもある。また、なにより、学術審議会が発表した「ユニバーシティ・ミュージアム設置について」に記されている次のことを具現化するために、巡回展形式の事業形態を取り入れた。

大学における研究成果については、地域社会に積極的に発信することが求められており、ミュージアムにおいては展示や講演会等を通じ、大学における学術研究の中から生まれた、多くの創造的、革新的な新知見等を地域住民に積極的に公開し、周知することが望ましい。

これは、ユニバーシティ・ミュージアムの機能として求められているものである。ここにあるキーワードは“地域社会”であり、ここを意識して研究成果の発信、公開、周知を“積極的”におこなわなくてはならない。つまり、大学博物館のある所在地で、同じ展覧会を開催することが重要なのであり、これが大学博物館に求められているのである。そのため、本学博物館では巡回展形式を取り入れ、相互に地域社会へ還元するとともに社会貢献を意識した事業としているのである。

また、大学博物館に所属する大学院生たちへ実践教育の機会を提供することが可能なことも特徴として挙げられる。本学博物館でおこなう展覧会に関与することはもちろん、連携先での企画に携わらせることで、効果的な実践教育をおこなうことができた。同一の展覧会であっても、会場が異なると展覧会そのものの印象もかわってくる。展示レイアウトを作成したり、展示作業に直接かわることによって、“活きた教育”となった。こうした教育的活動は大学博物館同士であるからこそ、容易におこなうことができるのであって、大学博物館の使命でもある、“次世代の学芸員養成”にも寄与することができる。

## 成果と課題

こうした大学博物館連携をおこなってきたなかで見出すことができる、成果と課題を示すと下記の通りとなる。

－成果－

### ①質の高い展覧会の実施

- ・秘蔵コレクションの展示
- ・展覧会内容の充実

### ②多角的な教育普及活動の展開

- ・多分野の研究者を招聘、講演会の実施
- ・実践教育の効果的実施

### ③大学の効果的な広報

- ・展覧会ポスターの掲出
- ・連携館同士のWeb公開

－課題－

### ①マンパワーの不足と施設の対等性

- ・人員不足と学芸員能力
- ・施設規模の問題

### ②事業予算

- ・年度予算内での事業

ここでは、課題についてその解決策を考えていきたいが、まず、マンパワー不足について、これは各館共通して抱える問題である。地域博物館がボランティア制度を導入し、博物館支援者を集めているように、大学には既に多くの在学生を有している。特に、学芸員資格課程を有する大学の場合、授業との関連性から展覧会事業に学生を参加させることができる。机上の理論ではない、実践的な授業をおこなうことが可能となる。次世代の学芸員養成を意識した取り組みにすれば、マンパワー不足の多少の改善にはつながるものと考えている。

つぎに予算的問題であるが、各館限られた予算のなかで、大規模な事業にするとさまざまな制約が生じる。連携の核となる博物館で当該年度予算化を図ることが原則となるが、そのなかで外部支援を受けることを意識することが大切である。本学博物館では、連携事業をおこなうために、船の科学館・海と船の博物館ネットワークから支援を受けていた。海と船をテーマに取り入れることによって、さらに新たな切り口も生まれ、展覧会の質的向上にもつながった。また、こどもワークショップを実施したり、ワークシートを作成し、教育普及の充実にもつながった。

連携事業の成果については上記したところであり、連携活動を継続しておこなっていくためには、こうした課題を解決していくことが求められる。一過性の企画で終わらせない制度づくりのきっかけが、連携事業のなかにある。展覧会終了後にも共同研究をおこなったり、さらには協定書締結により、組織だってテーマに取り組み、これを展示に反映させるという形が求められる。本学博物館では、2014年7月に、2013年度の連携校である國學院大學博物館と研究にかかる協定書を締結しており、今後、共同研究を進め、これを展示として発表していく予定でいる。



# 事業紹介

## Ⅰ特別展

### ・大学博物館共同企画シリーズⅠ

## 「イコンー東西聖像画の世界ー」

会期：2011年11月2日（水）～12月10日（土）

会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館、玉川大学教育博物館



## 特別展関連公開講演会

期日：2011年11月5日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「大学博物館の役割と西南学院大学のイコン」  
柿崎博孝氏（玉川大学教育博物館准教授）



「アイコンの美と魅力－玉川大学のコレクションから－」

特別展関連イベント せいなんこどもワークショップ

「松ぼっくりでクリスマスツリー！」

期日：2011年12月10日（土）

会場：西南コミュニティーセンター



・大学博物館共同企画シリーズⅡ

「閉ざされた島 開かれた海－鎖国のなかの日本－」

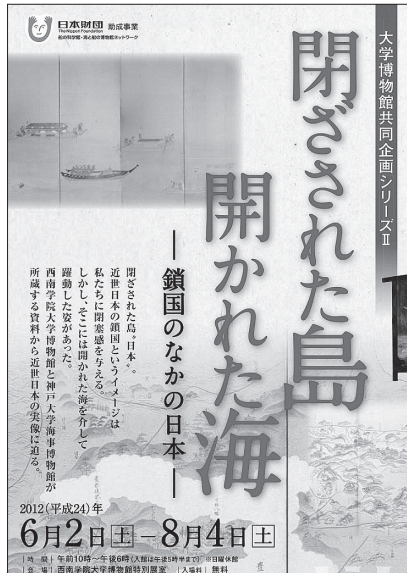
会期：2012年6月2日（土）～8月4日（土）

会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

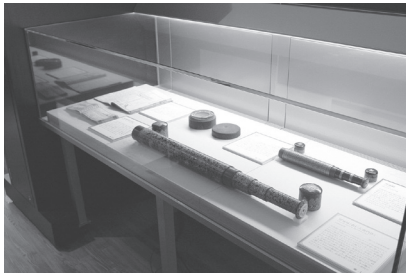
主催：西南学院大学博物館

共催：神戸大学海事博物館

協力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク







### 特別展関連公開講演会

期日：2012年7月14日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「鎖国のなかの近世日本」

野村昌孝氏（神戸大学准教授・神戸大学海事博物館専門員）

「神戸大学海事博物館コレクション紹介～海路図を中心にして～」



### 特別展関連イベント せいなんこどもワークショップ

「船のペーパークラフトをつくろう」

期日：2012年6月25日（土）

会場：西南学院大学博物館、西南コミュニティーセンター



## 「閉ざされた島 開かれた海—鎖国のなかの日本—」 part II

会期：2012年11月2日（金）～12月12日（水）

会場：神戸大学海事博物館

主催：西南学院大学博物館、神戸大学海事博物館



### ・大学博物館共同企画シリーズⅢ

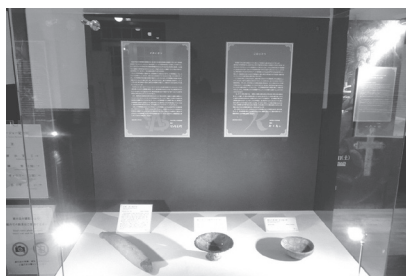
## 「日本信仰の源流とキリスト教—受容と展開、そして教育—」

会期：2013年11月1日（金）～12月21日（土）

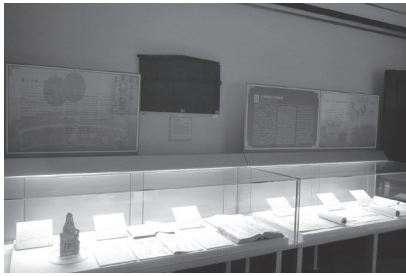
会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館、國學院大學博物館

後援：福岡市、福岡市教育委員会、福岡市文化芸術振興財団、南島原市、南島原市教育委員会







### 特別展関連公開講演会

期日：2013年12月7日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「日本信仰の源流とキリスト教」

深澤太郎氏（國學院大學助教授）

「『神道』の成立と外来文化」



### 特別展関連イベント せいなんこどもワークショップ

「大学博物館まるごとツアー」

期日：2013年11月9日（土）

会場：西南学院大学博物館



## 「日本信仰の源流とキリスト教—受容と展開、そして教育—」國學院大學会場

会期：2014年1月7日（火）～2月28日（金）

会場：國學院大學博物館

主催：西南学院大学博物館、國學院大學博物館



### 特別展関連イベント

ミュージアム・トーク

期日：2013年1月24日（金）

会場：國學院大學博物館

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）



### 特別展関連公開講演会

期日：2013年1月25日（土）

会場：國學院大學博物館

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「日本宗教史のキリスト教—伝来から近代教育まで—」





・大学博物館共同企画シリーズⅣ

「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」西南学院大学会場

会期：2014年6月16日（月）～8月30日（土）

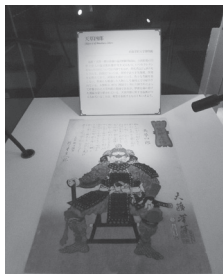
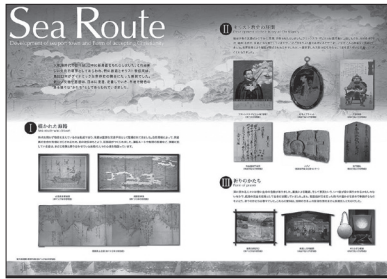
会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館

共催：梅光学院大学博物館、神戸大学海事博物館

協力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、福岡市文化芸術振興財団



## 特別展関連イベント ミュージアムセッションⅠ（※内容については39～58頁に記載）

### 「持続する‘連携’のあり方」

期日：2014年7月5日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

佐藤睦子氏（梅光学院大学博物館学芸員）

松本博幸氏（天草市観光文化部文化課文化振興係学芸員）

梶谷東輝氏（船の科学館学芸員）

司会：内島美奈子氏（本学博物館学芸研究員）



## 特別展関連公開講演会

期日：2014年7月26日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「海路－海港都市の発展とキリスト教受容のかたち－」

渡部一雄氏（梅光学院大学文学部長・博物館長）

「海峡・港町の2000年－文化遺産でたどる下関（赤間関）の歴史－」



## 特別展関連イベント せいなんこどもワークショップ

### 「わたしたちのせいなんミュージアム」

期日：2014年8月2日（土）

会場：西南学院大学博物館、西南コミュニティーセンター





### 「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」梅光学院大学会場

会期：2014年9月4日（木）～10月18日（土）

会場：梅光学院大学博物館

主催：西南学院大学博物館、共催：梅光学院大学博物館、神戸大学海事博物館



### 特別展関連公開講演会

期日：2014年10月18日（土）

会場：梅光学院大学図書館ホール

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「九州・山口におけるキリスト教史」

### 「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」神戸大学会場

会期：2014年11月8日（土）～12月19日（金）

会場：神戸大学海事博物館

主催：西南学院大学博物館、共催：梅光学院大学博物館、神戸大学海事博物館



[2014年春季特別展で作成した大学博物館連携（University Museum Cooperation）を表すロゴ]

## ②連携協定事業

### 【國學院大學博物館】

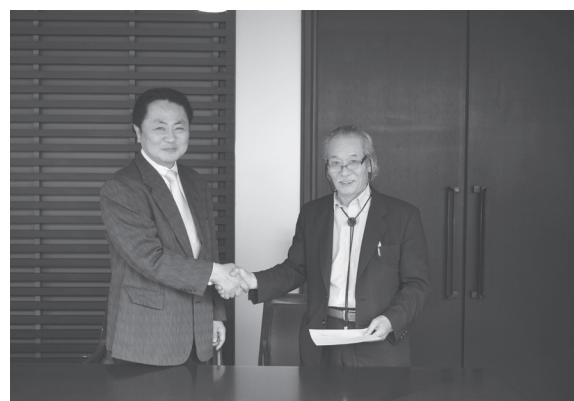
2013年度に共同開催した特別展事業を通じて、本学のキリスト教、國學院大學の神道という、宗教を建学の精神とする大学博物館の連携の重要性を相互に認識し協定を締結する運びとなった。今後は、共同研究事業や研究者の相互交流を促進し、学生教育や社会貢献事業の推進などよりいっそうの博物館活動の充実を目指す。



#### ・研究協定の調印式

期日：2014年7月15日（火）

会場：西南学院大学博物館



期日：2014年11月29日（土）

会場：國學院大學博物館



#### ・研究協定の担当者会議

期日：2014年11月29日（土）

会場：國學院大學博物館





・相互貸借特集展示 I

「うみやまの幸—縄文の九州—」

会期：2015年2月13日（金）～4月24日（金）

会場：西南学院大学博物館

西南学院大学 × 西南学院大学  
相互貸借特集展示 I  
うみやまの幸  
縄文の九州

会期 | 2月13日(金)～4月24日(金)  
場所 | 西南学院大学博物館  
入館料 | 無料

西南学院大学博物館 × 西南学院大学博物館 2014年度 大学博物館連携推進事業  
相互貸借特集展示 I (西南学院大学博物館所蔵考古資料) 会期:2015年2月14日(土)～4月24日(金)  
「うみやまの幸—縄文の九州—」 出品目録

■ 熊本県宇城市 浜ノ洲貝塚 (縄文時代後期、乙蒜原氏等葬)		■ 長崎県島原市 山ノ守遺跡 (縄文時代前期—後世)	
№	名称	№	名称
1	縄文土器	1	土器
2	縄文土器	2	土器
3	縄文土器	3	土器
4	縄文土器	4	土器
5	縄文土器	5	土器
6	縄文土器	6	土器
7	縄文土器	7	土器
8	縄文土器	8	土器
9	縄文土器	9	土器
10	縄文土器	10	土器
11	縄文土器	11	土器
12	縄文土器	12	土器
13	縄文土器	13	土器
14	縄文土器	14	土器
15	縄文土器	15	土器
16	縄文土器	16	土器
17	縄文土器	17	土器
18	縄文土器	18	土器
19	縄文土器	19	土器
20	縄文土器	20	土器
21	縄文土器	21	土器
22	縄文土器	22	土器
23	縄文土器	23	土器
24	縄文土器	24	土器
25	縄文土器	25	土器
26	縄文土器	26	土器
27	縄文土器	27	土器
28	縄文土器	28	土器
29	縄文土器	29	土器
30	縄文土器	30	土器
31	縄文土器	31	土器
32	縄文土器	32	土器
33	縄文土器	33	土器
34	縄文土器	34	土器
35	縄文土器	35	土器
36	縄文土器	36	土器
37	縄文土器	37	土器
38	縄文土器	38	土器
39	縄文土器	39	土器
40	縄文土器	40	土器

【熊本県 浜ノ洲貝塚】  
浜ノ洲貝塚は、天草諸島北東端の戸部島東側丘陵部に所在する縄文時代後期を中心とした遺跡です。1963年に、当時 熊本女子大学教授であった乙蒜原氏（後に西南学院大学名誉教授）が発掘を行い、土器・石器・骨角製品・人骨・動物遺体などが出土しました。特に数多く発見された貝類は、三角州・帯状自然階地の沖積扇部（三角扇地帯）による1962年調査の土器も含めると、これまでになく広く知られています。貝類に使用された貝の大半は、クマサバゴという内湾的産物と定まる有明海固有種であり、糸製品率が高いことから、現地で貝輪を製作していた様子がうかがわれます。また、鹿角製の大型釣針や、大型のエイ皿・サメ類の骨盤が見られるように、有明海という内湾域だけでなく、外洋域との漁獲活動も想定されます。なお、遺跡の周囲には、産物の生産に連した環状土坑が並び、動物遺体の4割はシカやイノシシが占めていました。浜ノ洲貝塚の人々は、獲れた動物肉を炙り、海苔モシ、山の毛ノを上手に利用した生活を営んでいたのです。(S/N)

【長崎県 山ノ守遺跡】  
山ノ守遺跡（山の寺大遺跡）は、島原半島の東部、雲仙山系から有明海に伸びる懸崖地上に所在する縄文時代前期から弥生時代早期にかけての遺跡です。発見者の高田正隆氏とともに1957年に発掘を行った高橋次郎氏が「山の寺式」を考案し、1960年・1961年には「弥生時代の成立事情」をテーマとした日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会による研究の一環として、乙蒜原氏らによってA～Cの3地点が発掘されました。総観では、B地点に「山の寺式」が多いことや、稲垣土器・土製紡車・山ノ守直土器・磁片や、丹波瀬川等の新たな群らしきものをかかわる資料が目撃されました。出土土器は、新日本学文土器を中心に、新石器の集約群と推定されていますが、時期別の検討は今後の調査です。今回新たにイネに加えてアワやシシトウの圧痕の確認されました。(S/N)  
\* 科学研究費「稲作・土器・人骨の分析を中心とした日本列島農耕文化融合の形成に関する基礎的研究」(代表：森岡博) による





## 2. 地域博物館連携



## 本事業の趣旨

本学博物館では地域博物館・地方自治体から協力を得ながら特別展を開催している。“九州のキリスト教シリーズ”と銘打った特別展は、2009年から4回に及ぶ。本事業は、西南学院大学がキリスト教主義の学校であることに鑑み、博物館の使命としてキリスト教をテーマとした実物教育を展開している。

また、九州はキリスト教の盛んな地域であり、今日でも各地にキリシタン文化を伝える資産を残している。南蛮文化の意匠の文物はもとより、キリシタン考古学の遺物など、地方自治体の尽力によって日々成果が挙げられている。福岡にある大学として、こうした蓄積を広く公開することによって生涯学習を幅広く展開すること。また、学生教育のなかで実物教育をおこなうことで、効果的な教育をおこなうことを目指した。

西南学院大学博物館は、キリスト教文化に関する資料を収集してきている。こうした資料とともに、各自治体が所蔵する資料をあわせて展覧会をおこなうことで、より質の高い展示をおこなうことができる。大学博物館の連携事業は、前項でも取り上げたように、大学の博物館関連施設とともに、これから派生して地域博物館の連携事業についても求められるところとなっている。学術審議会が発表した「ユニバーシティ・ミュージアム設置について」（報告）のなかに次のようにある。

設置されたミュージアム及び既存の大学の類似施設相互の連携を強化するため、定期的に開催されるユニバーシティ・ミュージアム協議会を設置し、学術標本情報のネットワークの整備や学術標本自体の貸借・移管等について協議する。ミュージアムの活発な運営のためには、この連携体制に一般の博物館も参加できる形にすることが望ましい。

これは、ユニバーシティ・ミュージアム整備の基本的な考え方として記されているものであるが、協議会を設置したうえで、大学内部における類似施設との連携強化を求めている。これを基本にしながら、「一般の博物館も参加できる形」を構築することが望ましいとされており、連携体制の最終形として本事業のような形態が挙げられている。いわば、大学博物館と地域博物館の連携は、当初から求められていることであり、大学博物館はこれを具現化していかななくてはならないのである。

以上のように、本学博物館では、大学の建学の精神のもとで、キリスト教文化を展示の軸にした活動をおこなっている。これは博物館規定に従ったものであり、九州・福岡にある大学として取り組まなければならない使命でもある。そのため、常設展示ではユダヤ教からはじまるキリスト教史の全体像を紹介しており、特別展では各テーマに基づいた具体的内容をより詳しく紹介している。常設展示との関連性を意識しながら、地域密着型の展覧会事業を展開しているのである。

## 九州のキリスト教シリーズの実施と効果

本シリーズは2009年度から実施したものであり、第1回目に島原市・南島原市、2回目には大分市、3回目には天草市、4回目には平戸市・公益財団法人松浦史料博物館と連携事業として開催したものである。実施状況について下記の表に記した通りである。

## 九州のキリスト教シリーズ

	展覧会名	連携先	会期	入館者
1	信仰とその証 ―島原・天草の乱と天草四郎―	島原市・南島原市	2009.06.20～07.31	3,871人
2	南蛮の鼓動 ―大分に残るキリシタン文化	大分県・大分市・津久見市	2010.05.27～07.03	2,318人
3	海流に魅せられた島 天草 ―祈りの原点とキリシタン文化―	天草市・天草市立キリシタン館・船の科学館・海と船の博物館ネットワーク	2011.06.06～07.13	2,617人
4	平戸松浦家の名宝と禁教政策 ―投影された大航海時代とその果てに―	平戸市・公益法人松浦史料博物館・船の科学館・海と船の博物館ネットワーク	2013.06.08～08.03	3,551人

1回目と2回目については、地方自治体・地域博物館から所蔵資料を借用し、本学で展覧会を開催した。あわせて、公開講演会を開催しているが、展覧会テーマに近い大学教員に講師を依頼した。中央史観に基づき講演をお願いするとともに、回を重ねるごとに地方史的観点を盛り込んだ内容となった。2回の講演会を通じて、日本キリスト教史の理解を促し、以降、開催していく展覧会の基本講座とすることを目的とした。3回目からは地域博物館の学芸員に講師をお願いし、地域目線から最新成果を含めて紹介していただいた。日本キリスト教史の全体像の理解を前提とした、各論のキリスト教史という構成プログラムであることから、リピーターの方には特に効果的な講演会となったものと考えている。

展示形態に関して、1～3回目は本学博物館でのみの開催であった。4回目からは、本学資料を中心とした企画展を、連携先で開催させていただいた。出張展示の一形態であるが、これまでに大学博物館へ訪れたことがない層へのPRにつながった。大学博物館の活動目的には、大学の広報的役割がある。大学博物館所蔵資料を通じて、教員の研究成果に対する理解はもとより、大学への認識を深めてもらう効果がある。さらには、“社会に開かれた大学の窓口”の遠隔地における具現化であり、さらには、広域な社会貢献のあり方ともなっている。一般の文化財とは異なる学術標本の姿を多くの人々に発信することができた。

## 成果と課題

このような連携事業をおこなってきて、次のような成果と課題を見出すことができる。

―成果―

### ①地域文化の情報発信

福岡に所在する本学博物館の展示を通じて、九州全域へ効果的なPRをおこなうことができた。展示を通じて、現地への人の流動を促し、地域活性化の一助となった。

### ②地域博物館のサテライト化

単一自治体との連携をおこなったことで、より内容のある展示となった。また、その期間、地域博物館の分館的役割ともなり、効果的な教育活動を展開することを可能とした。

## ③大学の効果的なPR

開催期間中、連携機関を通じて当該自治体へ効果的なPRをおこなうことができた。その結果、卒業生や関係各社への大学に対する理解を得ることができた。

## ④学生教育への転換

大学講義との連動により、実物教育の展開を可能とした。実物資料を閲覧できる利便性はもとより、現地を訪れる動機付けにつながった。研究者を目指す学生・大学院生にとっては研究素材の提供にもつながった。

## ⑤研究体制の確立

本事業を通じて、相互に研究協力体制を構築することができた。事業終了後においても、専門性を活かした協働をおこなっていった。また、地域で挙げられた成果をいち早く情報提供を受けることにつながった。

## —課題—

## ①学生教育への理解

学芸員を目指す大学院生たちが事業に参加することに対する不安が常に存在した。資料のハンドリングについては特に懸念される材料となった。

## ②施設管理への理解

大学博物館のハードの問題、そして警備体制等、指定物件を含むほど嚴重にしていかななくてはならない。本学では対応し得ても、大学博物館の全体的向上なくしては、信用を得るには難しい。

## ③費用対効果の問題

事業にともなう費用に対する教育的効果を常に視野に置いていた。福岡県外からの借用になるほど、運搬費を含めて総額がかさんでいった。

以上のような課題点について、①学生が展示に関わることへの不安は当然、発生しえる問題である。資格は有していても、実務経験がともなわない以上、資料に触れさせるには制限を設ける必要がある。ましてや、他館所蔵資料であればなおのこと、学芸員が責任をもって取り扱うことを条件として借用しなくてはならいと考えている。②施設管理に関しては、本学のハードを理解していただいた上で展示をおこなっている。建物自体が指定物件となっていることから展示環境には条件が生じている。新規ケースなどをつくって、借用館への要望に沿った展示環境を整えていった。③費用については、大学博物館連携でも同じことがいえ、外部団体からの助成金などを得る必要がある。本事業でも船の博物館・博物館ネットワークからの支援により、展覧会を開催している。

このような課題があるものの、それ以上の効果があることは言うまでもない。なにより、大学博物館として、地域博物館等との連携は求められている以上、これを具現化していかななくてはならない。そのためには、博物館に所属する教員が、学芸員としてのスキルを高めていくことが重要であることは言うまでもない。地域博物館と同等程度の技術がなくては、その後の発展は見込めない。連携するにあたっては、研究能力はもとより、これとは一線を画す学芸員スキルの向上が求められているといえる。



## 事業紹介

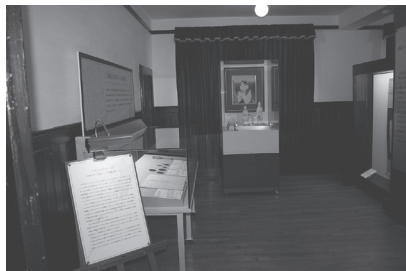
### ・九州のキリスト教シリーズⅠ

### 「信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎—」

会期：2009年6月20日（土）～7月31日（金）

会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館



### 特別展関連公開講演会

期日：2009年6月7日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「島原・天草の乱前後の江戸幕府禁教政策」

大橋幸泰氏（早稲田大学教育・総合科学学術員准教授）

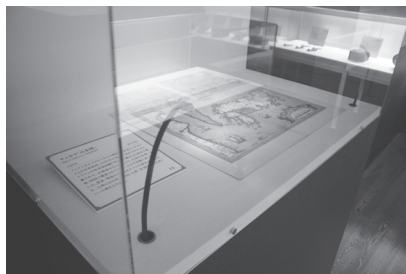
「近世人の島原天草一揆認識」

# ・九州のキリスト教シリーズⅡ 「南蛮の鼓動—大分に残るキリシタン文化—」

会期：2010年5月27日（木）～7月3日（土）

会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館



## 特別展関連公開講演会

期日：2010年6月26日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「大分に残る南蛮文化」

五野井隆史氏（東京大学名誉教授）

「豊後キリシタン盛衰」





・九州のキリスト教シリーズⅢ

「海流に魅せられた島 天草ー祈りの原点とキリシタン文化ー」

会期：2011年6月6日（月）～7月13日（水）

会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館

協力：天草市立天草キリシタン館、船の科学館・海と船の博物館ネットワーク



特別展関連公開講演会

期日：2011年11月5日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「海流に魅せられた島 天草」

中山圭氏（天草市教育委員会学芸員）

「海の領主天草五人衆と関連遺跡出土陶磁器」

松本博幸氏（天草市立天草キリシタン館学芸員）

「天草とキリスト教」

・九州のキリスト教シリーズⅣ

「平戸松浦家の名宝と禁教政策—投影された大航海時代とその果てに—」

会期：2013年6月8日（土）～8月3日（土）

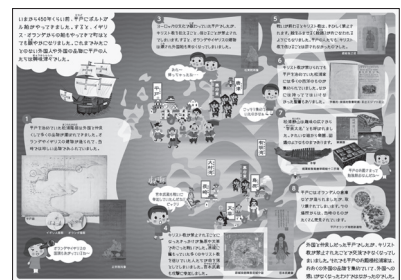
会場：西南学院大学博物館特別展室、2階講堂

主催：西南学院大学博物館

共催：公益財団法人松浦史料博物館

後援：福岡市、福岡市教育委員会、福岡市文化芸術振興財団

協力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク





## 2. 地域博物館連携



### 特別展関連公開講演会

期日：2013年7月6日（土）

会場：西南学院大学博物館2階講堂

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「平戸藩の禁教政策」

久家孝史氏（公益財団法人松浦史料博物館学芸員）

「平戸松浦家の歴史と伝来する資料」

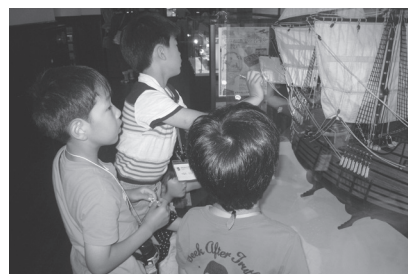


### 特別展関連イベント せいなんこどもワークショップ

「万華鏡をつくろう」

期日：2013年7月20日（土）

会場：西南学院大学博物館、西南コミュニティーセンター





# 「日本キリスト教史の展開」松浦史料博物館会場

会期：2013年8月6日（火）～9月8日（日）

会場：松浦史料博物館展示室

主催：西南学院大学博物館

共催：松浦史料博物館





### 3. 産官学連携事業

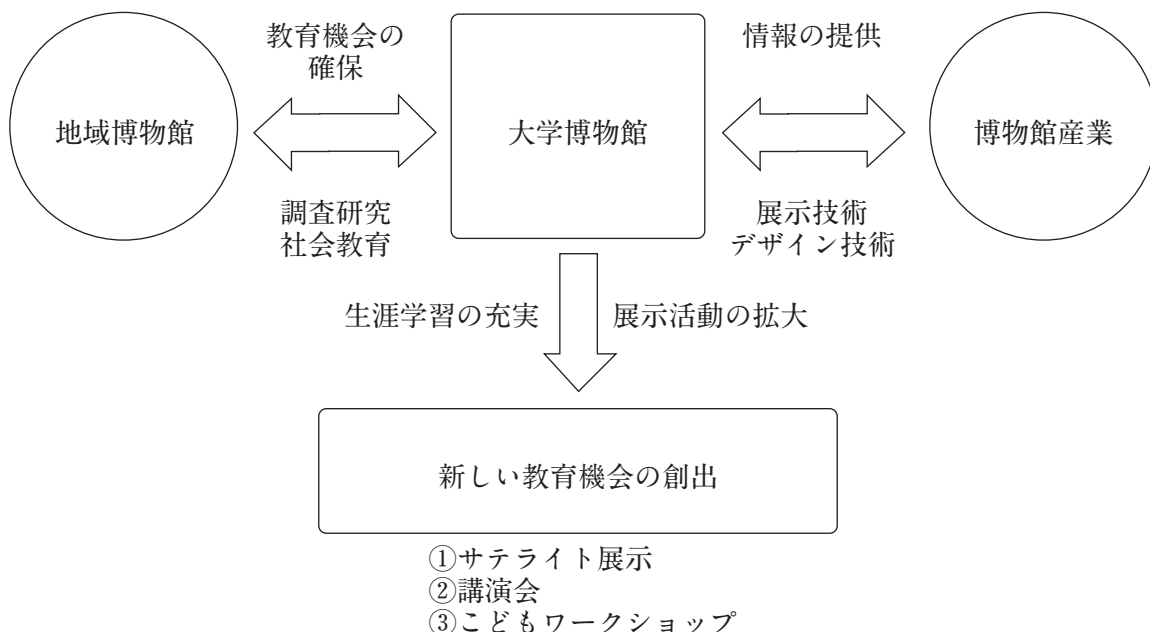
## 事業趣旨

本学大学博物館では、学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」（2011年度～）、教育IP「実践力のある博物館職業人の育成事業」（2012年度～）の採択を受けて、大学博物館および地域博物館、財団法人、民間の博物館施設を調査している。主要な館ではヒアリング調査を実施し、展示や資料保護の問題、そして博物館実習のあり方について意見交換をしている。その際、話題としてあがったのが、経費削減にともなう展示・教育普及活動の停滞や人員確保の問題である。

現在、博物館界全体として、上記が問題視されている。本来、博物館が行わなければならない事業の見直しも図られ、結果的に住民サービスへの低下を招いている。限られた予算内で新規事業をおこなうことも非常に困難なかで、博物館はまさに危機的状況に瀕しているといわざるを得ない。学芸員資格課程を開講している大学、そして大学に附属する博物館として、将来、博物館への就業を目指す学生が希望を持てる教育の展開と機会の確保は喫緊の課題と感じた調査となった。

そこで、この課題を博物館界全体で考えるために、“産官学連携事業”として企画した。博物館には、展示活動にあたって、いくつかの業者が関与している。形として残るものとして具体的にあげれば、資料を展示するケースや企画を広報する媒体を製作する業者などである。ここに、大学が地域にある教育施設と協働することで、博物館界全体の質的向上と教育プログラムの充実を図ろうと考えたのである。

## 事業イメージ



博物館産業は、地域博物館が現在何を求めているのか最新情報を知りえるとともに、自社製品や技術のPRをおこなうことができる。また、社会貢献する企業として、多くの人に周知させることができるメリットがある。また、地域博物館は、課題であった人員の問題は大学博物館からの協力により補うことができ、予算面による新規事業も博物館産業の支援により展開することができる。なにより、本事業を通じて対象とする地域住民への新たな教育機会を提供することにつながり、住民サービスの向上をもたらすことになる。地方自治体としての使命の一端を、本事業により果たすこ

3. 産官学連携事業

とができるのである。大学博物館としても、学生や大学院生に教育機会を提供することができるのと同時に、実践的教育の展開を可能とするメリットがある。また、大学に近年求められている地域貢献の一形態であって、展示をきっかけに、新たに講演会やワークショップの開催を可能となるのである。

このように、三者三様にメリットのある“triple-win”の関係性を構築することは、現在直面している博物館界において一石を投じるものになると考えている。そこで、本事業を具現化するものとして、天草市立天草キリシタン館と南島原市原城図書館の協力を得て、本事業をおこなうこととなった。展示事業をきっかけに、教育普及プログラムも展開することができた。

産官学連携チラシ



西南学院大学博物館  
産官学連携事業



## 事業紹介

### 【天草市立天草キリシタン館】

常設展示室前に天草キリシタン史に関係する本学資料を展示している。また、本事業をきっかけに企画展、さらには講演会、こどもワークショップを開催している。

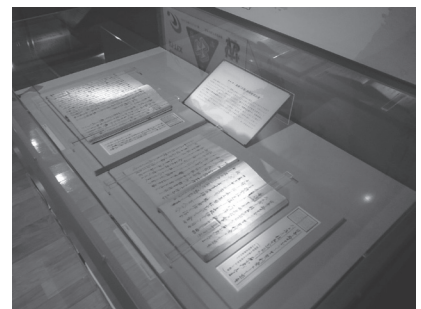


#### ・サテライト展示

### 「益田（天草）四郎時貞の姿」

会場：天草市立天草キリシタン館常設展示室入り口前

協力：(株) ツカサ創研、(株) インテックス



#### ・特別展

### 「西南学院大学博物館コレクション展 I」

会期：2015年2月14日（土）～3月22日（日）

会場：天草市立天草キリシタン館1階多目的室

主催：天草市立キリシタン館、西南学院大学博物館

協力：天草市観光文化部文化課



### 特別展関連公開講演会

期日：2015年3月14日（土）

会場：天草市立文化交流館2階

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

「天草キリシタン史と禁教政策」



### 特別展関連イベント せいなんおでかけワークショップ2014

「天草四郎をエコ・デコレーションin天草キリシタン館」

期日：2015年3月15日（日）

会場：天草市立文化交流館2階





## 【南島原市原城図書館】

図書館内において、本学博物館資料と南島原市所蔵資料をあわせた企画展をおこなっている。あわせて、講演会やこどもワークショップをおこなっている。なお、南島原市は2015年3月に本学博物館と協定を締結した。



### ・サテライト展示

#### 企画展Ⅰ「島原・天草一揆の実像と記録」

会期：2014年8月6日（水）～11月27日（木）

会場：南島原市原城図書館

協力：西南学院大学博物館、(株)ツカサ創研、(株)インテックス



#### 企画展Ⅱ「歴史の中の島原・天草一揆」

会期：2014年11月29日（土）～2015年3月26日（木）

会場：南島原市原城図書館

協力：西南学院大学博物館、(株)ツカサ創研、(株)インテックス



### ・歴史体験講座

#### 「禁教政策と島原一揆と宗門人別改帳」

期日：2014年11月13日（木）

会場：南島原市原城図書館

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）



#### 「島原と長崎－「犯科帳」を読む」

期日：2014年12月11日（木）

会場：南島原市原城図書館

講師：安高啓明氏（本学博物館学芸員）

### 「宗教画を読む」

期日：2014年12月25日（木）

会場：南島原市原城図書館

講師：内島美奈子氏（本学博物館学芸研究員）

### ・せいなんおでかけワークショップ2014

#### 「バッチ作りにちょうせん！」

期日：2014年8月5日（火）

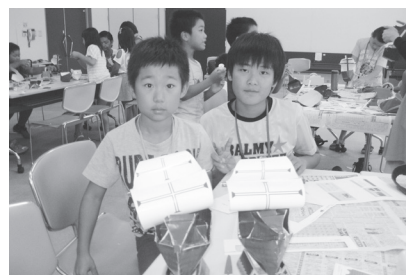
会場：南島原市西有家図書館



#### 「ポルトガル船づくりにちょうせん！」

期日：2014年8月6日（水）

会場：南島原市有家図書館



#### 「地球儀を作ってみよう！」

期日：2014年8月6日（水）

会場：南島原市原城図書館





# 「天草四郎をエコ・デコレーション」

期日：2014年11月15日（土）

会場：南島原市原城図書館



## ・相互貸借特集展示 I

### 「原城攻防と祈り」

会期：2015年3月25日（水）～7月3日（金）

会場：西南学院大学博物館



西南学院大学博物館 × 南島原市  
相互貸借特集展示 I 「原城攻防と祈り」 出品目録

日本キリスト教史の一画である島原・天草一揆。その最終舞台である原城には、天草からのキリスト教を含めて立て籠もり、最長年にわたって、天草四郎時を自衛する一揆軍は、激しい交戦を繰り返したものの、総数約 37,000 人が命を落とすとされる。彼らが原城で一度脱出した背景には、キリスト教信仰があった。そこで、原城でおこなわれていた戦術や信仰の実態について、原城発掘資料から紹介していきたい。文脈から読み取れない、当時の歴史を感じてもらえれば幸いである。

- 1. 鉛弾十字架-Cross-**  
原城出土遺物。  
鉛製の素朴な十字架で、一揆軍が籠城中に弾丸を溜めて作成したものと考えられる。
- 2. ロザリオの珠-Bead of Rosary-**  
原城出土遺物。  
キリスト教、珠と十字架を紐でつないだ数珠状の道具で、祈りを唱える際に使用される。日本では、「ロザリオ」と呼ばれた。本資料はガラス製で、国外から日本に持ちこまれたものだと推定されている。
- 3. 砲弾-Bullet-**  
原城出土遺物。  
原城の発掘状況に倣われたものだと考えられる。砲撃では数割の玉が命中、数割は空撃の火薬跡の玉などが発見され、本資料は空撃のものである。記録文書にも多数の空撃が持ち込まれたことが記されており、激しい戦いの様子をうかがい知ることができる。
- 4. メダル-Medal-**  
原城出土遺物。  
メダルはイオネス・キリストやウリア、聖人の肖像など多様な種類があり、祈りの道具として使用された。本資料は背面に聖聖体礼拝団が描かれており、もう片面には「LOVADO SEIA O SANCTISSIMO SACRAMENTO」の文字が見られる。
- 5. メダル-Medal-**  
原城出土遺物。  
メダルはイオネス・キリストやウリア、聖人の肖像など多様な種類があり、祈りの道具として使用された。本資料は背面に聖聖体礼拝団が描かれており、もう片面には「LOVADO SEIA O SANCTISSIMO SACRAMENTO」の文字が見られる。





## 4. ミュージアムセッションI

(2014年度春季特別展「海路—海港都市の発展とキリスト教受容のかたち—」関連イベント、16頁)

## 内島

「それでは、時間となりましたので、ミュージアムセッションを開催いたします。本日は、大変お忙しい中、特別展関連イベント第1回ミュージアムセッションにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の進行を務めます、博物館学芸研究員の内島と申します、よろしくお願ひします。それではまず、本日のスケジュールをご案内申し上げます。まず、本館学芸員安高啓明先生により、本セッションの主旨説明をしていただきます。そして、本セッションの第1部といたしまして、4人の講師の先生より、事例報告をしていただきます。まず、本館学芸員の安高啓明先生、次に梅光学院大学博物館学芸員の佐藤睦子先生、次に天草市立天草キリシタン館学芸員の松本博幸先生、次に海の科学館学芸員の梶谷東輝先生です。その後、第2部としまして、4人の先生方によるセッション、そして質疑応答の時間を10分ほど設けたいと思います。終了時刻は午後4時を予定しております。それでは安高先生よろしくお願ひします。」

## 安高

「こんにちは。これまで本学博物館では、公開講演会という形で一般の方に来ていただいて、特別展に関連する公開講演会を開催しています。それにあたって、近隣の住民の方々や本学学生を中心に参加していただいていたのですが、今回、このミュージアムセッションという、博物館関係者および将来学芸員を目指す学生・院生を対象としたシンポジウムを開催することになりました。

私は本学に着任しまして6年目になりますけども、その間、感じたことのひとつとして、大学博物館の活用が効果的ではないことがあります。もちろん、それは別に本学に限ったことではなくて、大学博物館をもつ各大学が、大学博物館の運用・活用のあり方をわかっていないともいえるでしょう。そもそも大学博物館があるひとつのメリットは本日のようなシンポジウムを開催し得る人脈やノウハウをもち、実践教育をおこなうことができる既成の環境が備わっていることにあります。学芸員を目指す学生にとって、現職学芸員の生の声を聞いてもらう機会というのは、非常に重要だと常々考えていたので、本日はこのような機会を設けるにいたりました。

今回、私、佐藤先生、松本先生、梶谷先生に、各館の事例紹介をしていただきますが、皆様には1つの目的があって集まっていただきました。というのも、まず佐藤先生は、私と同じように大学博物館の学芸員でありますし、松本先生は天草市という公立の博物館の学芸員です。また、梶谷先生



は公益財団法人の学芸員です。博物館運営のスタイルや職場環境の異なる学芸員が一同に会し、共通のテーマについて話していただくという企画になっています。皆様も、そのような目的を理解したうえで、今回のミュージアムセッションに参加していただければ幸いです。また、各学芸員の専門分野や博物館の所在地も分散しているため、地域の違い、博物館の運営の違い、学芸員の研究の違いがある中で、今回のテーマ「持続する『連携』のあり方」を、今後どのように展開していけばいいのか、ひとつの指標を見いだせればと思ってお



ります。積極的な意見交換ができるセッションにしていこうと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。」

## 内島

「引き続きまして、事例報告に入りたいと思います。安高先生よろしく申し上げます。」

## 安高

「西南学院大学博物館の連携事業を紹介するにあたりまして、大学博物館の取り組みには大きく2つの柱が存在しています。ひとつは、大学博物館という性格から「学生教育」、そしてもうひとつが「地域貢献」です。本来、大学博物館は、大学の地域貢献のツールとして運営されている側面があります。それは、当時の文部省報告の“社会に開かれた大学の窓口”として大学博物館を設置するように求められたことが大きいところかと思えます。

あわせて、学生教育に関してみると、スクリーンにある通り、実践教育の展開こそが、大学博物館が担う学生教育の本質ともいえるでしょう。では、実践教育とは何か。通常、大学の講義は、教員が壇上で話し、それを学生が理解するというのが一般的な講義方式です。そのような講義形式とは別に、聞いたり、学んだことを実践するところが大学博物館なのです。大学で学んだことが机上の空論とならないよう、実践の場をもたせることが、これからの大学博物館に求められるべきと考えます。もちろん、現在でも本学博物館は、各学生、大学院生に対し、“理論を実践化”する指導をおこなっております。

「地域貢献」についてですが、先にいいましたように当時の文部省報告書の中に「ユニバーシティ・ミュージアム設置について」というものがございます。その中で、各大学に、“社会に開かれた大学の窓口”として、大学博物館を設置するようという旨が記されています。それを受け、各大学に大学博物館がつくられたこととなりますが、まず、西南学院大学博物館がおこなっている展示活動と教育活動について、学生教育、地域貢献の視点から報告いたします。

まず、展示活動についてですが、本学博物館の展示活動では常設展、特別展、企画展をおこなっています。本学はキリスト教主義の大学ですから、キリスト教に関する常設展示をおこなっています。常設展をより掘り下げた、テーマ性をもたせた事業が特別展であり、今回、「海路」という展覧会を催しています。常設展の中身をもっと濃くしたもの、そして違う角度からみたものを特別展と位置付けています。さらに、企画展という展覧会も実施していますが、本学ではパネル展のことを企画展と呼んでおり、テーマに基づき、10枚～12枚のパネルを作成しています。これについては、学生主体で考えさせており、特別展を企画する前段、練習として指導しています。学生に実践教育の機会として企画展をおこなっています。大学博物館に収蔵されている資料を通じて、教員が一方的に教えるのではなく、学生が実物を扱い、どのように指導できるかという教育展開に重きをおいています。

一般の方には、いわゆる生涯学習の機会のひとつとして学習してもらい、展示を見ていただくことで、知的好奇心を高めてもらうとともに、大学博物館の活動に対しての理解を深めてもらうという機会にしております。開館以来、毎年、特別展を開催してきたこともあって、近年では多くのリピーターにも恵まれています。

学生への教育活動として、学部生を対象とした博物館実習をおこなっておりますが、基礎実習、実

実践習というカリキュラムで取り組んでいます。学芸員課程を履修した本大学の学生を受け入れて実習をおこなっています。加えて、実務実習というものをおこなっており、学芸員資格を保有している大学院生を対象に、大学博物館で実際に働いてもらっています。学部生より一層実践的な経験を積ませ、即戦力のある学芸員を養成しています。

もうひとつの教育活動としては、講演会があります。講演会は、一般公開というスタンスをとって多くの方にご参加いただいております。展覧会の内容をより詳しく、専門的に、なによりわかりやすく、参加者に知る機会を提供するために講演会を開いています。公開講演会は大人を対象としたイベントですが、児童を対象としたものとして「こどもワークショップ」をおこなっています。こどもワークショップは、西南学院の附属小学校をはじめ、西新小学校や高取小学校など、周辺には様々な小学校がありますが、それらの小学校の児童に参加していただき、展示に関する理解を深めてもらうことはもとより、大学博物館を身近に感じてもらうように取り組んでいます。

これらの教育活動には、本学学生にボランティアとして参加してもらっています。大学博物館は学生へ直接実践教育をおこなうことを可能としており、目的意識のある学生には広く開放し、博物館スタッフとして協力してもらっています。学生にも主体的に博物館を活用してもらう環境を整えています。その要望に応えるように、博物館がその機会を提供するというスタンスです。これは、学外的にも同じことがいえるでしょう。

さて、今回のテーマである連携に話題を移そうと思います。本学博物館の連携事業には2種類あり、ひとつが大学博物館との連携事業で、今回の特別展がこれに該当します。なぜ、このような連携をおこなうのかというと、従来の大学は非常に閉鎖的な環境にありました。安全面から正門に守衛を配していることもあって、一般の人が学内へ入ってよいのかどうか悩ましいと感じることもあり、地域社会との共生が求められるなかで矛盾が生じていました。長くこうした環境にあったからこそ、多くの方のイメージに大学の閉鎖性は浸透したものと思われる。

そうしたなかで、大学がそれぞれ所有する貴重な学術標本を、一般の人には見る機会がほとんど与えられていませんでした。公開する施設である博物館が設置されているなかで、まさに秘蔵のコレクションを広く公開していこうと思い企画しています。また、大学博物館の周知を図るためにシリーズ企画として継続して展開しています。

あわせて、自館だけでは演出することができない展覧会を、より専門的な質を高め、一般の人も楽しく理解ができるようにするため、大学博物館同士で連携をおこなっています。それに合わせて、大学博物館がまだまだ一般に周知された存在とはいえない現状を改善したり、さらには大学の地域貢献を具現化するという意味も含んでいます。

スクリーンに映しているのは、玉川大学教育博物館との共同事業として本学博物館で開催した時の会場風景です。もうひとつが、神戸大学海事博物館で開催した巡回展の様子になります。右下に映っているのは、國學院大學博物館で開催した展覧会の様子です。

学芸員を目指している学生さんに特に伝えたいことは、同じ展覧会の内容でも、博物館のハコが違えば、展覧会の内容や伝わり方も変わる、伝えたい内容は同じなのに、本学博物館のようなクラシカルなハコで展覧会をやれば、シックに仕上がる。真新しい博物館で開催すると、第一印象を含めて雰囲気が変わるのです。國學院大學博物館でこれを実証したわけです。学芸員を目指している学生の段階で、展覧会のこうした性格を知ってもらえると、就業時に大きく役立つものと考えています。いわば、学芸員の展示を通じた演出は既存のハコからはじまっているのです。

他方、大学博物館での事業は、学校のPRも含まれています。例えば、國學院大學博物館で展覧会を開催することにより、東京で西南学院大学のことを宣伝できるひとつの機会となり、神戸大学でやれば、神戸に西南学院のことをアピールできるというメリットもあるのです。大学広報の役割をも担う大学博物館はまさに“大学の顔”になるわけですから、質の高い展覧会事業をおこなわなくてはなりません。

そして、もうひとつの連携事業に“九州のキリスト教シリーズ”という、地域博物館との連携を軸にした活動があります。地域文化とキリスト教文化の掘り起こしをテーマとしておこなっていますが、ここでは大学と地域の協働を目的にしています。左側の写真は、大分市教育委員会、右側は長崎県平戸にある松浦史料博物館との事業になります。本学博物館で展覧会をやったうえで、学外に出る、ここでいえば松浦史料博物館、先の例では神戸大学海事博物館などというように、プラスアルファで外に出て展覧会事業をおこなっているということがひとつの特徴といえます。

それは、先にお話しました「ユニバーシティ・ミュージアム設置について」にあったように、大学博物館は“大学の社会に開かれた窓口”であるべきだということを受けた活動となっており、地域創生を含めた巡回展を開催しているのです。協力していただいた博物館にも、大学の地域貢献の立場から関わらせていただいております。

このように連携事業をおこなっていく中で、当然、得られるべき効果と生まれる課題があります。効果としては、次の3つが挙げられます。連携することで新たな知識などがもたされ共有されること、地域へ人の流れを生むという効果があるということ、そして協働・協力体制の構築といった効果があると私は考えています。特に2番目ですが、天草や大分との展覧会を開催したことで、見学者が実際に天草や大分に行くという動きが出てきました。そういった点で、大学博物館はヒトの流れを生む、そういう役割も果たしていくのではないかと、そうすると当然として経済効果が期待されるわけで、現地に赴かせるきっかけ作りを大学博物館が担っているともいえます。

もちろん、このような効果ばかりではなく、課題もあります。スクリーンに示したように、3点を挙げてます。ひとつめに、人的負担。連携事業自体が日々のルーティーンの中にはない、イレギュラーな作業になるため、人的負担は非常に大きいのが現状です。加えて、連携事業の規模に比例して、費用的な負担が大きくなるという側面もあります。もうひとつ、官学という、どうしても狭義的な連携になってしまいがちだということ。自治体との連携にしる大学との連携にしる、官と学、学と学ということになってしまうので、どうしても狭義的な連携になってしまうことが多いのです。そして最後に、連携による展覧会事業などは、どうしても期間限定の事業活動になりがちで、今回目指す持続的な連携が目に見える形でなかなかつながらない。

これらのことを課題として挙げられますが、そうした問題を解決するため、我々は恒常的な地域貢献・協働体制の構築のために、次のことをおこなっております。そのひとつが出張企画展の開催になります。先ほど、松浦史料博物館で、「日本キリスト教史の展開」という展覧会をおこなったという話をしましたが、これもひとつの形になります。企画展のパッケージ化は、人的・予算的負担を抑制することができ、無理なく事業展開することを可能とします。

ふたつめに、常設展示ブースの設置があります。天草市立天草キリシタン館では、うちの大学博物館の資料を展示させていただくブースを置かせていただいております。定期的に展示替えすることで、目に見える形での継続的な連携構築を目指しています。さらに、南島原市の原城図書館では、2014年8月6日から常設展示ブースを置かせていただく予定となっており、広がりを見せています。



こちらの特徴としては、産官学連携という博物館産業を巻き込んだ連携事業になっていることです。博物館産業とは、例えばケースを作る会社、チラシ・ポスターを作る会社、このような方々にも無償で協力していただいています。金額的に相当額をご負担いただいているわけですが、連携事業に博物館産業を巻き込むことが博物館界の裾野を広げて元気にする起爆剤としての役割になるのではないかと思います、このような事業展開もおこなっております。

例えば、博物館産業からみれば、自社製品のPRに加え社会貢献の場としての事業も関与していることとなります。官業からみれば住民サービスの向上や、我々学芸員との関係構築につながります。我々、大学側からすれば、自校のPRとともに、学生に対する実践教育の場の確保にもつながります。このような、いわゆるトリプル・ウインの関係を我々は目指して活動しているのです。

連携事業によって相互に新たな関係が生まれます。多くの地域や産業との連携を展開し、本学博物館が、その連携の核となるように活動しています。まさに、連携の網の目のなかの中心に本学を位置付けられるように産官学連携を推進しています。そうしたなかで実際に生まれたのが本展覧会であるわけです。今回の展覧会の開催にあたっては、日本財団と船の科学館からの多大なるご支援をいただきましたので、ミュージアムセッションの機会を得ることができました。本展覧会は、9月からは下関市の梅光学院大学博物館で巡回展示をおこないます。また、神戸大学海事博物館でも同じ形式で展覧会をおこないます。私どもの大学博物館は、連携事業を中心においた事業展開をおこなっておりますが、このような2館、3館といった連携が、網目のように繋がり、その核となるような活動を本学博物館は目指していくということで事例報告に代えさせていただきます。」

## 内島

「安高先生ありがとうございました。それでは続きまして、佐藤先生の事例報告に移りたいと思います。佐藤先生よろしくお願いたします。」

## 佐藤

「梅光学院大学の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。」

まず、なぜ本館は連携事業に関わったのか。この理由は大きく分けて2点です。

1つは慢性的な悩みがあるということ、そしてもう1つが、創設時の経緯です。先ほど、博物館学実習のなかで、実習館の役割が非常に大きいという話をしておりましたが、博物館学は皆さんも受



講されている方がいらっしゃると思いますが、資料保存論やメディア論、経営論など、多面的かつ多岐にわたる教育内容が求められている現状があります。これは実習館である当館も同様です。その中で教育効果をどのように上げていくかが必然的な命題にもなっています。また、学生自身による達成感。展覧会であったりこのようなイベントに携わったり、実際に関わり、そして達成するという実感の重みを経験してもらうということ。そして関わった事業の対外的な効果を実感してもらう。この

ような機会の創出を考えていくと、連携事業というのは非常に有効なのではないかと私は考えました。

2点目、創設の経緯についてですが、皆様に配布した資料に記載された通り、沿革の2番目に、梅光学院大学博物館の設立の経緯があります。その1の箇所には、地域文化研究所という研究附属施設がありますが、この研究所の開設と博物館資料室の開設、設立、研究のスタートがほぼ同時期でしたので、調査で収集された資料の保存・整理を、教員、学生、調査人、地域の方々たちで進め、協力を得ながら進めていったという経緯があるのです。つまり、連携事業が自然な形で推移していったということです。また、連携を始める直接のきっかけもありました。2009年に、山口県の埋蔵文化センターが埋蔵文化財公開復刻事業の一環で報告書が完成し、その資料を同センターの中で1年間公開します。その翌年、山口県内の8箇所から10箇所を巡回させるのですが、本学を下関会場にしないかという打診がきたのです。以降、継続して連携をしています。この連携事業の際、説明やポスター作成、広報活動の一切を学生たちが取り仕切ることにしています。こういった活動は、山口県埋蔵文化センターの方から御理解をいただいて可能になっています。これが、ひとつの連携事業としての関わり方だと思います。2010年には山口大学と梅光学院の交流展もありました。これ自体は資料を交換するということになりました。この企画はもともと大学博物館展第1弾だったのですが、第2弾はどうするか、当然考えることになります。そうやって模索していたときに、東日本大震災という現実が飛び込んで参りました。このとき、大学人に何ができるのか、大変真剣に考えました。人と自然との共生をテーマにした展覧会をおこなうにしても、公開施設をもっているのは山口大学と梅光学院大学のみ。裾野がこれ以上広がらないということもあって、どうにか広げていかなければならない。そこで、博物館だけではない、“ML (ミュージアム・ライブラリー) ”、つまり図書館をこの連携活動の中に組み入れる。そこから、トントンと連携が進み、震災を過去の記憶にさせないという目的を達成できたのではないかと感じています。翌年は「再生」をテーマにしたものを開催し、本年度は15大学のさまざまな施設で開催できる予定です。また、大学博物館だけでなく地域の博物館とも連携していくUMM連携も取り組んでおります。ユニバーシティ・ミュージアムとミュージアムという連携で、内容は共同企画でやっております。下関市の考古歴史民族資料館の学芸員が卒業生ということもあって有利に連携を進めてくれました。テーマはお互いが持っている学校教材について考えるというものです。今年も継続しますが、巡回ではなく事業連携です。梅光の資料を資料館に持っていき、学生に展覧会活動をさせる予定もあります。また、下関市立美術館との連携では、ワークショップの連携という形をとり、館内スタンプラリーなども企画しました。

このように、連携事業を繰り返していくと、当然メリットとデメリットが生まれてきます。メリットとして挙げられるのは、まず、死蔵資料に光を当てるきっかけができたこと。しかし、さまざまな死蔵資料を出しすぎると、それらの調査研究が未完のまま終わってしまうといった積み残しの現状も確かにあります。また、本学は学生数がそれほど多くない割に、認知度は確実にアップしています。1番挙げたいのは、不足の実感です。研究がいかに不足しているか、スタッフがいかに不足しているか、これらがもっとも強調して挙げたい部分です。やはり、未整理資料があるということには罪悪感があります。それを少しでも公開するという、使命感が生まれてきました。取り組みの中で、どのように死蔵資料を整理し、展示していくか。これはやはり、博物館そのものを考えたときに必要不可欠なこと、核になることだと思います。そのため、連携事業を通して、学術資料の公開はもちろん、こういった原点に立ち返るきっかけを得られるということもメリットになるのでは

ないかと考えております。今後の事業の連携の形についてですが、スクリーンにある通り、キーワードは「細く薄く長く」です。これは手を抜くという意味ではありません。連携事業の話を持ち出す際に、なんとか連携してもらいたいという気持ちで他の施設に伝えていた言葉です。「細く」というのは、1点でもいいから資料を出すことで得られる効果をお互いに実感しませんか、スタッフ同士でやり取りしていきましょう、という呼びかけです。限られたスタッフのやる気だけではどうしても持続しづらいのです。ですから、一定の運用スキルが必要になってくる。それから、「薄く」というのは、博物館の年間スケジュールの中に連携を位置づける割合は5分の1以下でなければ、なかなか物事が進まない。これは本当に実感しているところです。そして「長く」関わるということ。連携を継続しながらみえてくるものが多分あることを意味します。団体同士のつながりももちろんですが、1番は人とのつながりです。これが、継続はもちろん、新たな調査研究のきっかけにもなるのではないかと考えております。連携事業を隔年に移行するというのも、当然重要になってくると思います。メリハリをつける、無理はしない、小規模であっても館の普遍的な事業の中に組み入れる。そして結果はしっかり残す。その繰り返しで、いろんな事柄がみえてくると思います。学生教育の形としての連携事業、そして資料公開の形としての連携事業ができるのではないかと考えております。」

## 内島

「佐藤先生、ありがとうございました。続きまして、松本先生の事例報告に移りたいと思います。松本先生よろしく願いいたします。」

## 松本

「皆さん、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました、天草市立天草キリシタン館の松本と申します。本日はよろしく願いいたします。まず、このセッションにお呼びいただいた西南学院大学博物館学芸員の安高先生に感謝申し上げます。先にお断りをさせていただきますが、私、この3月まで天草キリシタン館で勤務していた学芸員ではありましたが、人事異動のため、現在は観光文化部文化課で文化財担当の仕事をお勤めしております。本館は独立運営ではなく、実はこの文化課の所轄である、一つの係としての位置づけになっております。

さて、これからお話しする内容ですが、最初に館の沿革も含めて簡単に概要を説明させていただきます。次にキリシタン館の中で実際にどのような取り組みをしてきたのかということについて、具



体的事例、今回は2つ挙げさせていただきます。それらをおこなう中で、私が個人的に感じたことです。キーワードは「学芸員に求められる能力」といった、ちょっとたいそうな言葉で恐縮ですが、実際に業務をこなすうえで何が必要になってくるのか、どうやって連携を持続していくのか、というところのポイントをお話させてもらいたいと思います。

まず、館が所在する天草市は行政区画上、熊本県になります。本館は名前の通り、天草における



キリシタンの歴史に特化したテーマ館です。平成の大合併で天草市ができましたが、合併前は経済部商工観光課が運営しており、観光施設という位置づけでした。平成18年3月の合併以後、教育委員会文化課に管理が移り、平成25年4月から、教育委員会の機構改革として教育委員会の管轄から出て、現在の管理におかれるわけです。観光課所管が長かったため、運営の主軸は観光施策・協力であります。その意味で偏った施設であり、博物館法に則った登録・施設ではなく類似施設なのですが、国の重要文化財をもっていることから、実際は博物館の形態をとった運営をしています。最近よく耳にする「歴史文化遺産を町の観光資源にしよう」という動きがありますが、当市でもそういった情勢の中で、博物館施設も観光により活かすという目的で組織の形が変わっていったのです。私は平成21年から5年間勤務しておりましたが、その間の4年前にリニューアルをしました。リニューアルといっても館が丸ごと建てかわってしまいまして、全く新しい施設になっています。配布資料の説明を全て読むと長くなるので、かいつまんでお話しします。休館日が年3日間、開館時間は8時30分から18時まで。いつ観光客の方が来ても観られるように、という配慮のもとで運営がなされています。常勤職員は私含めて2名。それ以外に非常勤職員が6名、これは窓口対応と事務処理補助員ですが、館長も非常勤です。彼らはいわゆるパートタイム勤務で、ローテーションで回すという形になっています。年間7万人弱の人たちが来場されています。今年の3月、昭和41年8月の開館から総計400万人を達成することができました。当館の特徴として大きく挙げられるのは「数字」でして、来場者の80～90%が観光客、つまり地元の市民がほとんど足を運ばない。過去、予算を取って展覧会をするなどのイベントがあまりおこなわれていなかったものですから、地元の人々の感覚からすれば、一回行ったからもういいや、何も変わってないだろうとおっしゃる方が非常に多いのです。一つ例を挙げますと、実際、観光客の方が多く、問い合わせの半分以上は観光案内が多い。商工観光課所管が長かったこともあり、リニューアルにあたって、当館を中心に情報発信をして観光ルートの創出を図ろう、というインフォメーション・センター機能も位置づけられています。こういう状況でするので、勤務中は来館者対応、事務処理などに追われまして、なかなか学芸仕事できません。実際に私が学芸業務に取り掛かるとなると、閉館後に夜間での作業が基本的な日常業務になります。

観光客には多く来てもらっても、市民の方が来ない。このような運営の現状で、学芸としてどう取り組んでいくかという課題の中で、西南学院大学博物館様には、非常に密な連携を取らせていただいております。きっかけは平成22年度に、その翌年度に開催される特別展の出品依頼を受けたことがはじまりです。さらにその翌年度も特別展に関わらせていただきました。当館としましても、完全にキリシタン系のテーマ館でありますから、どうやって活動を広げていこうかといったときに、キリシタン資料を取り扱っている館は全国的にも少なく、九州だと長崎純心大学博物館様、西南学院大学博物館様、そういったところになります。資料出品等を通じ、意気投合といいますか、信頼関係を築きあげることができました。現在進行形でいろいろなお仕事に携わらせてもらっており、当館でも本年度の展覧会事業として、西南学院大学博物館様の資料を展示させていただこうと思っています。それから、当館が持っている古文書を、来年、リニューアル5周年記念事業として翻刻刊行しようと思っているのですが、その全体監修を安高先生にご内諾いただいております。そういった協力、連携をこれからも継続していこうと思っていますところ。

そして、産官学連携ということですが、これらは安高先生からのご提案という形で、当館がモデルケース、第一号といった形で取り組ませていただいているものです。当館は展示スペースのみ有料で、他はフリースペースです。それで、どちらに展示品を設置しようかと協議した結果、やはり

今回はPRとして館内の目立つところ、フリースペースに設置しようということになりました。企画立案・資料出品は西南学院大学博物館、この作業にかかった費用は業者様に負担していただき、私たちは場所を提供しPRをするという形で御協力させていただいております。博物館事業において産官学とは、展示業者、輸送業者、印刷業者などの産業界、公立博物館としての官のことですね。それぞれの業界で、博物館産業をもっとPRしていこうという取り組みになります。この話を提案していただいたのは安高先生ですが、やはり、館同士、学芸員同士の信頼関係の上に成り立っているものかなと個人的には考えており、今回の事例報告に入れさせていただいております。

2番目の内容ですが、館内文化財保存環境改善業務から研究協力、継続した関係ということで、実際にはどういうことかといいますと、当館がリニューアルした際に文化財の保存環境が問題になりました。新築のコンクリート躯体から出るガス、つまり、館内の空気中に含まれる文化財汚染物質が基準値以下にならないと文化財を安全に保存することができない。ですので、濃度を基準値以下に下げることが必要になったわけですが、もともと私は発掘が専門でしたので、博物館施設の保存環境に関する問題に直面したのはこれが初めてでした。国指定重要文化財の保存・展示環境に関しては東京文化財研究所という保存科学の専門研究機関に指導をお願いするのが通例で、改善指導に入らせていただきました。また、熊本県立装飾古墳館様にも指導をいただき、東京文化財研究所の指導を咀嚼して、ワンクッションおいていただく役割を担ってもらって、三者で取り組んできたわけであり、実際に1年半ほどかけて改善をし、業務としての成果はそこで達成されました。しかし業務だけで終わらせるのではなく、それを研究に昇華しようという提案を受け、平成25・26年度と2回、研究成果を学会発表することができました。私が異動した後も、その館同士の連携は維持されておりまして、3年たった現在では、なんとか指導関係から共同研究者と呼んでいただけるまでになり、一歩階段を上ることができたといえるのかなと個人的に感じているところです。

持続と連携のキーワードというところで、行政に身をおいている学芸員の立場からすると、何においても「コミュニケーション能力」です。研究だけに陥りがちとか、自分の専門にこだわりがちな学芸員は、地方に行けば行くほど敬遠されます。自分も採用された頃にいわれた経験がありますが、物言いが威圧的になったり上から目線のように相手に受け取られるからです。また、学芸員にとって専門用語を駆使するのは非常に簡単ですが、聞いている相手からすればそうではない。一人で学芸員仕事をしていても、周りには事務系スタッフもいるので、いかにして伝わりやすい伝え方をしていくか、理解者・協力者を作ることができるか、それがまず第一歩かなと思います。また、仕事をするうえで必ず相手がいるので、相手がいることを意識する。相手の立場や状況を想定し、一方的な解釈に陥らないようにすること。対外的な関係では、やはりギブ・アンド・テイクがないと厳しい。一方的になるとどちらかの負担になってしまいますので、それぞれが思いやる、そして強制的ではなく自発的に相手の要望に応えていくこと、相手のメリットになることを考えつつ、双方がウィンウィンになるよう取り組むことが必要です。他にも、地方に行くと専門スタッフが少ないので、一人で様々な分野を対応しないとイケない事項が増えます。「知らない」「わからない」は現実的に言いにくい。その解決策の一つとして、様々な専門分野の人脈を作る。その交流の中で自分の領域を広げつつ、いかにして関係を続けていくか。これも、地方の学芸員にとって重要なことではないかと考えられます。こういったことのベースは、すべてコミュニケーション能力が大きく作用すると思います。

最後に申し上げておきたいことがございます。博物館運営における観光優先による懸念ですが、

当館において運営上観光優先の現状は今も変わっていません。それを少しずつ時間をかけてシフトチェンジさせていくことが必要なのですが、内部の実際は定量評価です。いわゆる数字だけでしかみない、これだと実態がわからない。当館だと、来場者の80%以上が観光客で地元の人々の目が向いていないということに気づけない。数字の内容が考慮されず、芯が置き去りにされているわけです。そのような状況下でわれわれ職員が、本当は誰をみて仕事をしなければいけないんだろうと考える必要があります。地元市民に支えられなければ、館の存続すら危うい。社会的に認知されなければ、博物館は死んでいるのと同じです。館が存続し、継続性を担保できなければ、連携を持続させることなどできません。学芸員のつながりも、個人との関わりから組織との関わりに発展させていくことが、自分の周囲に認知していただくためにも重要なと思います。やっぱり、なによりも先に「ヒト」なんですね。結局、人同士のつながりがあっての仕事ですので。以上で終わらせていただきます。」

## 内島

「松本先生ありがとうございました。続きまして、梶谷先生のご報告に移らせていただきたいと思っています。梶谷先生よろしくお願いたします。」

## 梶谷

「皆様、こんにちは。東京からやって参りました船の科学館の梶谷と申します。今日はテーマにあわせて、私たち船の科学館の活動、それから今回関わらせていただいている西南学院大学博物館の企画展からの一考察を事例として報告していきたいと思っています。」

まず、船の科学館がどのような活動をしているかということ、写真にオレンジ色の船が写っております。これは今から50年以上前に南極に行った「宗谷」という南極観測船です。場所は東京のど真ん中、お台場に位置し、東京湾に面した潮風香る博物館となっています。私たち船の科学館の活動に関してですが、海に興味を持ってもらいたいということがあります。日本は海に囲まれた島国なので、食料品なら6割以上は船で輸入しており、エネルギーは8割以上、というような海への理解につながるように、まずは楽しみながら感じてもらえるようにしています。実際に南極観測船にも乗っていただいています。そして、こちらの写真のように、館内にはさまざまな船の模型を並べて、領海についてのことや、船乗りのなりかた、海上保安庁の仕事はどんなものかなどというものです。2

番目に、教育普及活動。こちらは講談師様の御協力のもと、海を楽しく理解できるようにしています。さらにプールも併設しており、原始的な船であるカヌーに乗っていただいて船の操作方法だとか、浮力、重心などについて、体感しながら海について知っていただく。そのほかにも、調査研究事業の一環で宗谷や黒船についても調査結果を出版しています。

これまでが、博物館展示を使った活動になるのですが、それ以外にも海に関する興味関心を促進する活動をおこなっております。それが海と船の





科学館ネットワーク活動という事業です。海と船の企画展に関して資金的なご支援をさせていただいています。私たちがやる活動にはどうしても限りがあります。そのため、全国の博物館様に海や船に関する企画展をしていただくことに対して、資金援助をすることで、より広く海について認知して頂こうという活動です。また、海と船の巡回展事業というものもあります。これは大きな展覧会の巡回ではなく、巡回展示キットの貸し出しで、これで海に対する興味を持ってもらうきっかけをもっていただいています。最後に海と船の研修会ですが、上の2つが展覧会的であるのに対して、こちらは事例発表などを通して新たな取り組みの検討や、海の専門家が一同に介するため、学芸員の交流の場として機能しています。われわれは公益財団法人、つまり民間ですので、他館では普通しないような資金援助などのサポートを通して活動の幅を広げていっているわけです。以上が活動紹介です。

では、次に全国の博物館をサポートするという連携事業について事例を報告させていただきます。まず、この西南学院大学博物館の共同企画展の事例がひとつの大きな成果として挙げられます。この「海路」の企画展ですが、ミッション系大学や神戸大学海事博物館など、今回の企画展は、単館の蔵出し展覧会で終わってしまうのではなく、しっかり連携の取れた企画展になっていると感じました。このように、ひとつの博物館でやるよりも、より広がりのある展覧会となり、そして効果も期待できると考えております。ひとつの博物館だけでやると、なかなか理解が深まらないのです。しかし、神戸大学のように海をテーマにした博物館、そして西南学院大学さんのように海から伝播したキリスト教を掛け合わせることでテーマが広がりをみせ、博物館に興味をもっていただくためのきっかけにできるのではないかと考えております。もうひとつの事例としては、大阪湾周辺に博物館が6館あり、「大阪湾Years連携企画展」という事業を昨年おこないました。大阪湾というテーマのもと、資料の貸し借りをし、生き物、文化、歴史などさまざまなテーマから展示をしましょう、同じテーマでも様々な切り口の分野があるので、それを集めて巡回させましょう、モノだけでなくヒトも講演という形で巡回させることで連携を深めましょう。私たちの企画展の支援という形によって、それまで10年間、大阪湾Yearsでは水質などの調査・研究にとどまっていたところを、熱意のある方々によって研究結果を展示として発表することができたという事例があります。先ほど述べましたが、大阪湾という共通テーマで、ベースとなる展示物は巡回させながらも、各館の得意分野ごとに味付けし、個性のある展示が可能になったという事例でした。それだけでなく、地元の関連機関、市民団体なども参画された活動となっています。漁協の皆様と協力して、お魚市場の見学会だとか、NPOと協力した屋外観察会の実施など、博物館同士の連携にとどめるのではなく、市民の力も入った企画展となりました。それから3つ目の事例ですが、海の研究会という企画もございます。先ほど申し上げた海と船の研修会で、事例発表をおこなってくださった参加者が主導されて海に関する分科会、勉強会を開催していただけることになりました。本年度で3回目を迎えますが、安高先生も中心メンバーとして動いてくださっています。参加者も全国や九州の学芸員、もしくは大学の研究者であり、様々な発表を通して知識や情報を共有することはもちろん、研究者同士の出会い、ネットワーク作りの場となっている重要な事業です。

そのほかにも、直接私たちが関わっているわけではありませんが、効果的な事例として挙げられるのが、動物園、水族館などが加入している日本動物園水族館協会の活動があります。飼育、調教、繁殖といった共通したテーマに関する知識を共有すると同時に、各館が得意にしている生物の情報などが、協会にさえ入っていれば全て知ることができます。それ以外にも、繁殖のための動物同士

のお見合いなどもおこなえるといった、加入者に役に立つ機能も存在しています。これらは、普段からヒトや情報の交流がされています。たとえば、東日本大震災にて福島県の水族館は壊滅的な状況に陥りましたが、近隣の博物館が生物たちを預かるといったように、マニュアルもないのに有事の際の助け合いにも発展している。そういった普段からの付き合いができて、非常に良い連携事例もあります。

そのほか、上野地区9施設連携「ミュージアム・スタートあいうえの」という博物館連携もあります。上野地区は世界でも有数の博物館施設や研究施設が揃っており、むしろ今まで連携してこなかったのがおかしいほどでした。そして、つい最近連携が始まったのですが、その内容というのが、従来のスタイルである、モノの貸し借りによる資料の拡充やヒトの移動による講演・研修会活動などではありません。社会教育の場としての博物館の面白い点・機能・活用法を紹介した冊子に、参加者自らが書き込みレポートにしていく過程で、自発的に学ぶという、いわば博物館の使い方を学ぶという事業です。また、市民活動の取り込みについてですが、従来のように市民をボランティアという形で取り入れ、仕事の指示をする、というスタイルではなく、「どうすればこの博物館がより良くなるか」を市民に問いかけ、様々な企画を作ってもらおうという取り込み方をしています。その際、各博物館のキーマンとなる方々が日々連絡を取り合って情報交換、共有をしながらプログラムを作成しています。このような取り組みも良い例だと思います。

さて、これまでの事例紹介の中で共通するポイントとして、「普段から定期的に連絡を取って、気軽に話せる環境づくり」が挙げられると思います。資料の貸し借りをきっかけとした出会いの中から、学芸員同士、ヒトとヒトのつながりを大切にしていく。その中でも、今回の講演会でいえば安高先生のようなキーマンとなる人物を中心に熱意をもって事業に取り組む。そこから継続して連携を続け、そして、より深いところに着目した新しい企画を生み出していく、という仲間を作っていくということが重要であり、そのためにもまず、定期的に連絡を取り合うといったことが不可欠だと思います。加えて、お互いのミッションに共通するものがあるということが必要だといえるでしょう。お互いウィンウィンの関係でいられるように努めること。また、先生方もおっしゃる通り、まずはできることからやっていく。いきなり大きな連携というのはできないものです。信頼関係を少しずつ築きながら、徐々に連携の規模を大きくしていくというのが良いと考えられます。それ以外にも気をつけるべき注意点もあります。それは、連携ありきで事業展開を考えないこと。あくまでも連携は目的を効果的に達成するための手段であって、それが目的になってはいけません。さらに、学芸員の実態としては、雑務が多く、時間も予算も人員も足りないというのが現状です。ただ、そこで終わってしまっただけではどうしようもないので、やはり熱意は必要です。もちろん、ただやるぞというのではなく、現状を踏まえたうえでのサポートができること。当館の場合だと、海に関することをもっと広めたいという熱意のある方に資金面での支援をすることで、効果的に結果を出していくという形になります。以上で報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。」

## 内島

「これで第1部の内容を全て終了いたしました。講師の先生方ありがとうございました。今から第2部を始めたいと思います。総合司会の安高先生お願いいたします。」

## 安高

「報告者の皆様、貴重な事例報告をありがとうございました。続きまして、時間の許す限りセッションの討論へ移りたいと思います。まず、各先生方の報告を拝聴しまして、キーワードとして次の3点が挙げられると思います。まず「博物館事業のマンネリ化の打破」っていうところ。次に「人と組織の構築」という点。最後に、本セッションのテーマでもある「協働」ということです。



各館、連携の核となる部分は、人と人との信頼関係があり、それに加えて各学芸員の熱意とコミュニケーション能力に寄与するところが非常に大きいといった趣旨のご報告を各館、先生方からご報告をいただきました。まずは、私と梅光学院の佐藤先生は大学側からの視点ですし、天草市の松本先生からは地方自治体の視点、船の科学館の梶谷先生からは民間、財団運営といったそれぞれ多面的な角度から連携のあり方をご指摘いただけたと考えております。

今回のテーマが「持続する連携のあり方」です。単発の連携事業であれば、容易でありこれまで数多く単会されています。それをいかに続けていくのが肝心であるわけで、先ほど佐藤先生がおっしゃったように、「薄く」という視点も当然必要になってこようかと考えている次第です。本来、私からですね、お三方にどんどん振って、事業展開の討論を盛り上げていこうかと思いましたが、時間も時間ですので、会場の方からご質問いただいたうえで先生方にお答えしていただこうと思います。誰かご質問される方、いらっしゃいますか。」

## 質問者①

「こんにちは、西南学院大学の学部生の久保と申します。梅光学院の佐藤様に質問です。連携のあり方として、薄く長く取り組むことを目的に今後も続けていく、その比重は全体の運営の五分の一とおっしゃいましたが、続けていくうちに、形骸化が懸念されると思いますが、そちらに関して対策というものは何か考えられていらっしゃいますか。」

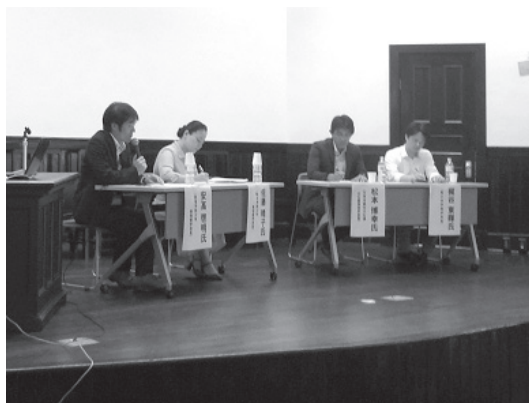
## 佐藤

「学生さん、なかなかするどいですね。そうなのです。形骸化しないようにどうするか。まず「連携」という言葉をまず考えないといけません。連携をするうえで、継続するためにはどうするのか。「薄く長く」というのはキーワードとして申し上げたことですが、これは手を抜くということではなくて、部分的であっても確実に展示することです。展示する、つまり結果を出すところまで仕上げるということです。ですので、連携の範囲をある程度絞りながら進めていく、というようなやり方を現在おこなっております。例えば、本展覧会の連携に関しては、梅光学院の展示点数はですね、4点くらいしかしていません。その意味で、本学がこの4点で、どの程度まで深められるか、調べることができるのか、どのような寄与をすることができるのかということが重要になります。点数を少なめにして形骸化といわれないうに、資料の調査研究をおこなっていきたくは思っていますが、本学は本学で独自に動くという、そういったスタンスをとっています。」



## 安高

「ありがとうございます。いきなり良い質問が出て、私の指導は間違っていなかったなど。まあ、自画自賛ですが。それに、連携と形骸化という視点からですね、それと現場の視点と民間側の視点の方から、形骸化しないための工夫や取り組みについてそれぞれ、ご紹介いただければと思います。松本先生の方からお願いします。」



## 松本

「形骸化させない方法ということですが、実際のところ、私どもは形骸化というところまで、まだ来ていないというのが正直なところ。いろいろなことに取り組みつつ、館の運営状況等もあるため、その対応と両立しながらの活動になります。私どもの場合は、一球入魂みたいですが、全てが全力投球で、そのうえ、それが自転車操業でまわっているというような状態です。反面、疲労なども非常に多く、今後はその点についても対策を考えていかなければいけないと思っております。ただ、まず私どもは、組織の内部、つまり館を取り巻く天草市という行政内部の状況において、「キリシタン館は何かやっているぞ」、「最近では頻りに展覧会の告知が来るな」と思わせられるように、そういう姿勢を見せるというところが、当館が一番重要にすべきことだと思っております。それを館として持続させるためには組織内での理解も必要ですし、自分が、学芸員がその館の顔としていろいろな企画展や取り組みを人脈を利用してやっていきますけれども、それを支えてもらうベースとして館の存在というのがやはり非常に重要ですので、足元固めのところを現在念頭においています。対外的な交渉をウィンウィンの関係で進めるということを考えながら、相手の館と連携を進めていく、良い配慮をしていく、というところを考えています。」

## 梶谷

「私からは、先ほどの発表の通り自分の館の活動の連携事業というよりも、ご支援させていただいた部分から連携のあり方や事例紹介でしたので、その部分から言わせていただきます。お金のご支援をさせていただいて企画展なんかをやっていただいていると、当然「金の切れ目が縁の切れ目」という言葉が出てきます。お金をもらってしまえば終わり、その後はもう船のことはやりませんよ、というのが一番良くありません。ただ、こうなってくれたらいいなというものがあります。安高先生は、キリスト教という海との繋がりが分かりにくいテーマにも関わらず、毎年私どもの支援を活用していただき、キリスト教における船の役割を中心とした海についての企画展をやっていただいています。今回、何年目かにして、このような連携についての企画展の関連事業において、私も含めて発表させていただいているということは非常にありがたいことです。最初は、支援が欲しい、お金が欲しい、というのが当館と関わるうえでの動機であることが多いのですが、何年か続けていただくと、段々と海に関する仲間や知見が増え、それを形にすることができる。というのが、すごくいい例だと思っております。このように理解してくださる方と出会って、仲良くさせていただくというところが大変難しいのですが、これがやはり重要なのかなと考えます。」

## 安高

「ありがとうございます。今回の展覧会はキリスト教と海というなかなか接点が難しい中で、神戸大学海事博物館にも協力いただき、テーマ性のある展覧会をしています。ここにあって、多くの支援を受けているわけです。申請書の作成は大変ですが、私は本事業が学生教育にもたらす影響や博物館界全体に、どのような効果をもたらすかというところも含めて申請させていただいています。それを認めていただいて今回の事業をおこなっています。

それぞれのご報告にもありましたように、連携事業は“ヒト”同士の付き合いというのが非常に大きいので、各人のコミュニケーション能力にも寄与しているように感じます。そこで、連携の継続性という観点から、これを形骸化しないためにどのような取り組みをしていくのかといったご報告を各人していただきました。また何かご質問ありましたら、挙手をお願いします。どなたかいらっしゃいますか。」

## 質問者②

「西山と申します。今日は、貴重な講演をありがとうございました。興味深く拝聴させていただきました。専門的ではないかもしれませんが、お伺いしたいことがあります。やはり、連携事業や新しい事業をするにあたって、それを理解してくれない、上司や同僚、あるいは猛烈に反対するような方などもいらっしゃったと思います。そういった場合、どのような対応をしてこられたのか。少々一般的な話になりますがお聞かせいただければと思います。」



## 安高

「それでは、まず私からお話させていただきます。当館は大人数いる部署ではありません。基本的に館長と私です。大学組織でみれば500何名の教職員がいますが、私どもの場合は学校の理解があるおかげで、起案はスムーズに通っており、反対勢力に出会ったことはありません。他館の事情を伺うと、やはり一番ネックになるのは金銭面でしょうか。それと、人的な負担の部分の大きいようです。それらをどうクリアするのかっていうところですね。人事的な部分に関しては結局、私と司会の内島、事務の補助をしてくれている学生たちを中心に回していきます。予算的なところでいえば、今日のように船の科学館さんからの補助金をいただいていることもあって、学校には費用負担は生じないということを大前提に話をしていますので、特段大きな反対は起こっていないのかなという実感があります。」

## 佐藤

「梅光学院大学の場合は、正直申しますと両手を挙げて、さあやってくださいというような状況ではありません。これは、安高先生がおっしゃったように、予算、人的負担ですね。特に梅光の場合

は、私と7月26日に講演する予定となっております館長の渡辺の2名が実質スタッフです。その中で連携事業を起こすと言うと、どこかにひずみが出てくるのではないかと何度もいわれてきました。それでも、最終的にでも続けられているのはなぜかという、結果と成果、そして続けたいと思うスタッフの熱意が重なったためです。なんとかして連携事業が成立するというような形です。今まで梅光学院がおこなってきたことは全てそうした形になっています。

ですので、あきらめずに訴え続けるということ。予算は当然、配分があるので、今日組み立てて明日やるということはまず厳しいです。そのための準備も並行するという考え方で、これまで4年間は続けてきました。参考になりましたか。以上です。」



## 松本

「天草キリシタン館での話ですが、なかなか理解を得られている状況ではないというのが、本当に正直なところなんです。私がいた5年間、上司と意見が合わない、理解を示していただけないということが多々ありました。それを少しずつ、ひとつの事業ごとに対応してきたというのが実感です。参考になるような話、いいやり方ではないかもしれませんが、先ほど相手がいるという話をさせていただきました。役所内部でのことですが、他の部署と連携してやっていこうとか、こちらの提案に協力していこうということに対して、素直に「うん」と言って頂けないことが多いです。そういった時に、相手の状況を自分がどれだけ把握しているかというところが、ある程度重要なかなと感じました。私は専門職の採用ではなく、一般事務職の肩書きになっています。学芸員資格保有者ということで専門的な仕事をしているのですが、私たち学芸の分野は役所の中では肩身が狭いのです。一般事務職の方で、「あなたたちは好きなことができているね、趣味が仕事になっていいね」という人が現実に沢山います。実際はそうではないのです。私たちはそういう気持ちで仕事をしているわけではありません。研究の分野、興味・関心と、仕事はある程度分けて考えています。しかし、私たちは役所の人間、行政職員ですので、一般事務職の人たちは学芸分野を理解しなくても「知らない」で通用しますが、私たちは一般事務職の方々の業務を「知らない」では通用しないのです。一般事務職の方達の業務内容を私たちも当然理解しておかないと、同じテーブルに着けないわけです。このことは、私が実際、業務上の実例として経験したことです。事業をおこなうために、とにかくまずはスタートラインに立つ、そのためには相手のことも理解する。スタートラインに立てたら、同じ活動が続け、活動を体験してもらうことで相手に理解してもらうというやり方を段階的にとっていかないといけない。ここまで自分が譲れる、ここから先だけは絶対に譲らないというところを自分の中で整理して分けるといった手法を、自分の中で育てた部分もあります。このような形で、その都度、理解を少しずつ深め、事業を細々と実施してきたというような形になっています。」

## 梶谷

「船の科学館としては、経験則というか一般的な話に關与してきた事例としての話ですが、だめなものだめというのが結構あります。館同士の連携が理想ですが、それもだめということもある。そ



の場合、根っこになる学芸員同士が、館の業務としてではなくプライベートのようなところで連携していただいている事例があります。海の研究会など、本当は館同士での事業としてやるべきところであるはずとどの参加者からみてもそうだと思うのですが、やはりプライベートでお休みを使って自費を使っていらっしゃる方もいます。現状はどうしてもこうなっているのです。そのため、まずはできることから、わずかながらでもやっていくのが良いのではと思います。」

## 安高

「お三方のお話を伺って、自分はまだ恵まれている方だなと思いました。その反面、事前調整といえますか、下積み積み重ねてきているところもありますから、私の経験則ではそれほど反対にあっていないのかと感じます。

お三方の話をもとめると、既成事実として動いている部分が反対している人たちを抑えやすいということ。連携は相手を伴うということですから、その相手先に迷惑がかかる。その代わり、自分たちの人的負担部分は当然出てきてしまう、といった趣旨になるかと感じた次第です。お答えになっていたでしょうか。」

## 質問者

「ありがとうございました。」

## 安高

「他、あともう1人くらいいらっしゃいましたらどうぞ。」

## 質問者③

「西南学院大学の筒井と申します。先ほどの形骸化というお話にも繋がるかもしれないのですが、今日の講演会の中で一番心に残ったのが、連携ありきではいけないという話です。新しい企画をしようとした時に、やはり連携は非常に魅力的な選択肢だと思うのですが、連携ありきとまではいかずとも、連携という手段とそもそもの目的の両方の視点を考えながら実行可能なもの、というような形で新しい企画を考えたのだろーと思います。梅光学院大学様が図書館と連携をしたというのは、視点や目的から図書館を洗い出したのか、それとも選択肢の中から選ばれたのか、お伺いしたいです。例えば、文学や歴史などの文字資料という視点か、もしくは、人的な繋がりがあったのか、などといったように教えていただきたいです。」

## 佐藤

「図書館についてですが、こちらは「山口県大学ML連携」というミュージアムとライブラリーの連携が東日本の大震災の関係からスタートしました。これは、共通した展示や事業活動ができるテーマを選ぶということなのです。もちろん連携ありきではありませんが、例えば、必ずしも全員が参加しないということは当然ありません。1回目は「文化財記憶への一歩」というテーマで皆さん書きませんか、ということでした。それともう1つは「再生」というテーマでした。このテーマでは、一から何か物事を生み出すというような発想もあれば、その修復からといった観点から展示をする方もいらっしゃいました。ですので、その言葉をどう解釈するか。そして現実はどう活かすかが肝心

です。それぞれの大学が持っている学術資料を、どのようなテーマでご紹介するのか。本年度のテーマは「発見」です。各々がそれぞれ、発見してもらおうという意味もあり、主催者側がこういうものが見つかりましたよ、ということを示唆し、展示化するという発想もあります。場合によっては、来場者のみなさんに来ていただいで、ぜひ発見して下さいという解釈もあるかもしれません。テーマには捉え方に幅をもたせられる言葉を選び、図書館では、内容にも関わるものか、保存や貸与など、資料を活かす形にした連携です。図書館スタッフが困る事態もありましたが、博物館側の運営の方がむしろ出す資料に限られますので、どのように工夫して、楽しく見ていただくか、いかに関心をもっていただくかということを考えるのは、むしろ学芸員側のスキルであり、研究をいかに利用していくかということに繋がっていくと思います。」

## 安高

「連携ありきという標語の部分であれば、どうしても相手を伴うことですので、相手が好感触でなかった場合、連携は成り立たないということです。前提としての連携、つまり連携ありきになってしまうと、人的負担ももちろんのこと事業の発展性も狭められてしまうのでは、という趣旨だったのではないかと思います。結局、持続するにあたって相手の存在は不可欠で、広い人間関係の構築を今後図っていく必要があるのではないかと思います。最後に一人手を挙げられたので、その方を最後にして終わりたいと思います。」

## 質問者④

「西南の学部生です。先ほどの質問に付随して、図書館でどのような展示をしたのか教えていただけますか。私はもともと高校時代に図書館委員をしており、図書の展示も経験したことがあり、博物館とどのような連携展示をしたのか気になったので、お願いします。」

## 佐藤

「事例報告ですね。梅光学院大学の図書館の場合だと、「文化財記憶への一歩」という初回のテーマがいい事例です。展示内容としては、(スクリーンを指しながら) 四角に囲ったところを展示内容というところがございます。ここに梅光学院大学図書館と山口大学図書館の例が挙げられています。これは、「文化財記憶への一歩」という自然とともに生きるということなのかなというテーマの中で、それぞれの館が解釈、表現した形を紹介しています。例えば図書館の場合、「雨ニモ負ケズ」といった「祈り」として解釈し、取り組みました。本学の場合、復刻版や、「雨ニモ負ケズ」という言葉をパネルにし、実際に音読しました。見て、読んで、心に届くといったように。そういった響きをかみしめながら、東北のみなさんの事を思いましよう、考えましようといったメッセージの展示になっていたと思います。図書展示でもあり、博物館がこのようなパネルの二次資料を製作して紹介したというのが具体例です。山口大学の図書館さんの場合だと、「災害と災害の歴史」といったテーマで、水害や災害に関する記録もあわせてご紹介されていたと思います。また、図書館には、一般の蔵書、図書もありますけれど、貴重図書も中には含まれます。それらのご紹介や、机の上に線を引いてご紹介するなど、フロアを工夫するといった形で、できることからできる形で紹介しようと展示をしていました。」

## 安高

「博物館同士の連携というより社会教育機関との連携という枠組みになっているわけですね。本学の博物館も8月3日より、原城図書館と恒常的な連携事業を展開するようになっていきます。このように、博物館以外の教育機関と、社会教育機関と連携されている取り組みは、天草キリシタン館や船の科学館でもされていると思いますので差支えなければそれぞれお話いただければと思います。」

## 松本

「佐藤先生がおっしゃられたML連携についてですが、実は当市の内部でもあります。当市は、小規模な資料館を合併前の自治体で1つか2つずつもっていたため、天草市の管理する資料館は当館含め11館ございます。図書館も、中央図書館1館に各分館が地区図書館という形で管理・運営されています。それともうひとつ、公文書を歴史資料として取り扱うアーカイブズも当市にはございます。これらはそれぞれの所管が違い、資料館は観光課・文化課の管轄、図書館は社会教育課、アーカイブズについては行政文書の取り扱いがメインになるので、総務課の管轄になっております。昨年か一昨年の終わりごろ、ライブラリーとミュージアムとアーカイブズのMLA連携を図っていこうという取り組みが始まりました。しかし、現実的には誰もが自館のことで手一杯であり、一つのテーブルに集まる機会を設けただけで、そこから先の具体的な連携事業には辿りつけていません。しかし、連携して何か取り組もう、特に市民向けの企画をやっていこうという意思は非常に強いです。そういった話はたくさん出るのですが、現実的に一番問題になるのは、その企画を誰が、どこが中心になってやるのか。結局、言い出しっぺがやらないといけないという風潮があります。なかなか皆思っているところを言い出さないし、実際に人的負担、財政的な部分で、どう負担していくか、あるいは予算は取れるのか。それらの点が、軌道に乗ったとはいえないので今後検討すべきところですよ。」

## 梶谷

「船の科学館では、一つ挙げるとすれば、まだ博物館の事業を単館でやっていた頃に、まず当館から、東京港の港の機能について、どういう船が働いているのか等を知っていただくために、船に乗って港を回っていただくシップウォッチングというツアーがありました。「あの船はこういう作業をしているところなんです」「あの港、あの施設は、ああいうためにあるんです」と解説している時に、様々な船が働きたくさんの組織が関連しているというなかで、海上保安庁からは順視艇が出て、そこにイメージキャラクターのうみマルくんが乗っていたり、「水上警察という海の警察にあたる方たちで海で事故が起こったならば助けに行く人たちですよ」などの解説をすることができます。あとは、まず東京税関の検疫船というのがあって、そこでは密輸に対して目を光らせています。東京消防署には消防艇があり、特別に水を噴水していただいて、海火事があった場合、陸からは消防車、海からは消防艇が行きますよ等、各組織の方に来ていただいて、そしてイベントが終わったら港に帰って今日知ったことをおさらいし、近くの施設まで案内をしています。博物館同士ではない連携事例として、このような連携をしています。」

## 安高

「先ほどからの意見を踏まえまして総括しますと、当初連携のあり方は、同一テーマ間における連携のあり方や、少数の館との連携、その他にも博物館以外の社会教育機関との連携といったように、



連携の枠が広がってきていることがわかります。同種館との連携を維持しながら、異業種の博物館や図書館、他の教育機関との連携もおこなっていくことも必要にもなるのかと感じます。

このような事業を続けていくにあたって、これまでの意見を集約すると、ある意味「同士の集団」のように感じます。館種を越えた同じ志を持った人間の集団による事業展開が連携であって、持続する最大の要因になります。その裏付けとしては、各学芸員や関係教員の個々間コミュニケーション能力に起因しますね。その能力如何で具体的な連携方法も変わってくるものなのだと思います。相手への信頼関係を築くには、どっちが上でどっちが下だという関係性だと長くは続かない、みんながフラットでお互いのウィンウインの関係であることが何より大事だと思います。

やれることからやっていくこと、できる限り無理のない事業展開を連携事業に取り込むことがポイントになるのではないのでしょうか。本事業は西南学院大学博物館が中心に動きましたが、本学の連携事業の形態も最初は他館から借りるだけでした。その後、資料を借りた館から講演会の講師として来ていただく形態に変更し、さらにその他の博物館からよそに出していくというような形態に変えています。さらにそこから、私ども教員が、相手の博物館に行き、講演会を開催したり、ワークショップ事業をやるといった事業にシフト転換しています。連携の形は各館それぞれであり、きちんとした正解がないわけです。各館の事業規模、事業内容に沿った連携の展開を一度しっかり考える必要があります。

これらをトータルして考えると、結局は個人の学芸員の器量に繋がってくるのがわかるかと思っています。今日来ていただいている博物館の学芸員を将来目指していこうとしている学生さんたちにも、このことをご理解いただきたいと思います。今日参加していただいた一般の方にも博物館のサポーターの方々や、同業者の方々、皆様の理解が得られてから、徐々に事業が広がっていき持続する関係性が築けていけるかと考えている次第です。

以上のことを踏まえまして、今回のミュージアムセッションを結ばせていただければと思います。今後も、2回、3回、4回と、継続して開催するつもりです。できる限り現場の声を、学生教育に活かしたいという思いが私にはあります。各大学がいかに地域の博物館と財団法人の博物館などとうまく繋がりをもっていくのかが、これからの博物館界を下支えるひとつのキーになると思います。今日は皆様、ご参加いただきどうもありがとうございました。代表して挨拶にかえさせていただきます。今日は長時間でしたが、皆様どうもありがとうございました。」



# 付録 大学博物館調査一覧

(2015年3月現在)

## 凡 例

- 本表は、下記の参考文献とヒアリング調査をもとに作成したものである。
- 2015年3月現在、177校、255大学博物館を掲載している。
- 本資料の作成にあたっては、安高啓明、内島美奈子の指導のもと、以下のメンバー（山尾彩香、出口智佳子、下園知弥、阿部大地、吉岡香澄）が作成した。
- 調査中の箇所は空欄にしている。

参考：伊能秀明『大学博物館事典－市民に開かれた知とアートのミュージアム－』（日外アソシエーツ株式会社、2007年）、伊能秀明・織田潤「資料 日本のユニバーシティ・ミュージアム」（『明治大学博物館研究報告』第11号、2006年）



都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 <small>(博物館法に基づく登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)</small>	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
北海道	1	札幌医科大学標本館	〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17 基礎医学研究棟8F	1972年	類似	—	011-611-2111	http://www.sapmed.ac.jp/medm/index.html	
	2	札幌学院大学考古学資料展示室	〒069-0833 北海道江別市文京台11 A館1F	1987年	類似	—	011-386-8111	http://www.sgu.ac.jp/1_4map.html	
	3	札幌国際大学博物館	〒004-8602 北海道札幌市清田区清田4条1-4-1 札幌国際大学 6号館1階	2000年10月28日	—	—	011-881-8844 (代表)	http://www.siu.ac.jp/04organ/2087.html	
	4	札幌大学埋蔵文化財展示室	〒062-8520 北海道札幌市豊平区西園3条7-3-1 札幌大学2号館1階	1989年4月14日	類似	—	011-852-1181	http://www.sapporo-u.ac.jp/education_research/museum/	
	5	東京大学人文社会科学研究所附属 北海道文化研究常呂実習施設 (常呂資料陳列館)	〒093-0216 北海道北見市常呂町字栄浦376	1973年	相当	—	015-254-2387	http://www.lu-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html	
	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林北海道演習林麓郷森林資料館	〒076-0161 北海道富良野市麓郷市街地1	2003年3月	類似	—	016-742-2111	http://www.ufa.u-tokyo.ac.jp/hokuen/	
	7	北海道大学総合博物館	〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西8	2001年4月1日	相当	—	011-706-2658	http://www.museum.hokudai.ac.jp/	
	8	北海道大学総合博物館分館 水産科学館	〒041-8611 北海道函館市港町3-1-1 北海道大学函館キャンパス	1958年	相当	—	013-840-5553	http://www2.fish.hokudai.ac.jp/modules/article/content0117.html	
	9	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 厚岸臨海実験所付属 アイカップ自然史博物館	〒088-1113 北海道厚岸郡厚岸町愛冠1	1949年	類似	—	015-352-2056	http://www.fsc.hokudai.ac.jp/akkeshi/index.html	
	10	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園	〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西8	1886年	相当	—	011-221-0066	http://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/index.html	
	11	北海道薬科大学薬用植物園	〒047-0264 北海道小樽市桂岡町7-1	1976年	—	—	013-462-5111	http://www.hokuyakudai.ac.jp/campus/plant.html	
	12	北海道大学薬学部・大学院薬学研究院 薬草園	〒060-0812 北海道札幌市北区北12条西6	1956年4月1日	—	—	011-706-3242	http://www.pharm.hokudai.ac.jp/garden.html	
青森	13	東北大学植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森県青森市大字荒川字南荒川山1-1	1929年	—	—	017-738-0621 (FAX)	http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/hakkoda-hajime.htm	
岩手	14	岩手大学ミュージアム	〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-8	2001年	相当	—	019-521-5082	http://www.museum.iwate-u.ac.jp/	
	15	岩手大学農学部付属 農業教育資料館	同上	1902年(植物園)/1978年(資料館)	相当	国指定重要文化財	019-621-6678	http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/edu/	
	16	動物の病気標本室	同上	1902年10月1日	—	—	019-621-6685	http://muvetmed.agri.iwate-u.ac.jp/	
宮城	17	東北学院史資料センター	〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1	2001年5月15日	—	—	022-264-6538	http://www.tohoku-gakuin.jp/archives/	
	18	東北大学植物園	〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内12-2	1958年4月1日	—	—	022-795-6760	http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/	
	19	東北大学史料館	〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内27-1 東北大学附属図書館本館2号館内	2000年12月1日	—	—	022-217-5040	http://www2.archives.tohoku.ac.jp/	
	20	東北大学総合学術博物館	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	1998年4月9日	—	—	022-795-6767	http://www.museum.tohoku.ac.jp/	
	21	東北大学植物園	同上	1958年4月1日	相当	国指定天然記念物「青葉山」	022-795-6799	http://www.pharm.tohoku.ac.jp/~yakusoen/	
	22	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館	1989年6月23日	相当	—	022-717-3318	http://www.tfu.ac.jp/kogeikan/	
	23	東北薬科大学附属薬用植物園	〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4-4-1	1939年	—	—	022-234-4181	http://www.tohoku-pharm.ac.jp/plant/yakuso.html	
	24	常盤大学博物館学博物館	〒310-8585 宮城県水戸市見和1-430-1	2002年	—	—	029-232-2836	http://www.tokiwa.ac.jp/about/center/museum/	
秋田	25	秋田大学大学院工学資源学研究所附属 鉾葉博物館	〒010-8502 秋田県秋田市手形字大沢2-2	1910年(列品室)/1961年10月8日	相当	—	018-889-2461	http://www.mus.akita-u.ac.jp/index.html	

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設、博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
山形	26	東北芸術工科大学美術館大学センター(東北芸術工科大学ギャラリー)	〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5				023-627-2043	http://www.tuad.ac.jp/museum/	
	27	山形大学附属博物館	〒990-8560 山形県山形市小白川町1丁目4-12 山形大学小白川キャンパス図書館3階	1952年4月1日	相当	—	023-628-4930	http://www2.lib.yamagata-u.ac.jp/museum/	
福島	28	福島県立医科大学附属学術情報センター展示館	〒960-1295 福島県福島市光が丘1		類似	—	024-547-1682	http://www.fmu.ac.jp/univ/center/joho.html	
茨城	29	筑波大学附属図書館貴重書展示室	〒305-0006 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学 中央図書館新館1階		類似	—	029-853-6051	http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/collection/exhibition	
	30	筑波大学歴史・人類学専攻資料室	〒305-0006 茨城県つくば市天王台1-1-1		類似	—	029-853-4403	http://www.histanth.tsukuba.ac.jp/others.html	耐震工事により閉鎖中、関係者のみ閲覧可。
	31	筑波大学朝永記念室	〒305-0006 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学 大学会館内	1983年9月29日	類似	—	029-853-2382	http://tomonaga.tsukuba.ac.jp/room/purpose.htm	
	32	茨城大学五浦美術文化研究所	〒319-1703 茨城県北茨城市大津町五浦727-2	1955年	類似	—	029-346-0766	http://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/	
	33	東京藝術大学大学美術館取手館	〒302-0001 茨城県取手市小文間5000	1994年		—	029-773-9111	http://www.geidai.ac.jp/museum/concept/toridekan_ja.htm	
	34	足利工業大学総合研究センター風と光のミニミニ博物館	〒326-8558 栃木県足利市大前町268-1	2001年4月21日	相当	—	028-462-0782	http://www2.ashitech.ac.jp/crc/square/	
栃木	35	國學院大學栃木学園参考館	〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地	1993年6月1日	相当	—	028-222-5511	http://www.kokugakuintoichi.ac.jp/sankokan/index.html	
	36	東京大学大学院理学研究科付属植物園日光植物園	〒321-1435 栃木県日光市花石町1842	1902年	類似	—	028-854-0206	http://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/nikko/	
	37	文星芸術大学系列博物館相当館上野記念館	〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和2-5-8	1976年11月1日	相当	—	028-625-5905	http://www.bunsei.ac.jp/UENO/	
	38	跡見学園女子大学花咲記念資料館	〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6	1995年11月15日	相当	—	048-478-0130	http://www.atomi.ac.jp/univ/museum/	
	39	上野学園大学日本音楽史研究所	〒340-0048 埼玉県草加市原町2-3-1	1973年4月1日	—	—	—	—	
埼玉	40	共立薬科大学附属薬用植物園	〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田600 慶應義塾大学 浦和共立キャンパス内			—	—	—	
	41	大東文化大学ピアトリクス・ポター TM資料館	〒355-0065 埼玉県東松山市岩殿554 (埼玉県こども動物自然公園内)	2006年		—	—	—	
	42	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	〒368-0034 埼玉県秩父市日野田町1-1-49	1916年	類似	—	049-422-0272	—	
	43	日本工業大学工業技術博物館	〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1	1987年	相当	—	048-033-7545	http://www.nit.ac.jp/center/scholarship/museum.html	
	44	武蔵野音楽大学入間校地楽器博物館	〒358-0035 埼玉県入間市中神728	1967年	—	—	042-932-2111	http://www.musashino-music.ac.jp/gakuen/facilities/museum/index.html	
	45	立正大学博物館	〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700	2002年4月1日	相当	—	048-536-6150	http://www.ris.ac.jp/museum/	
	46	城西国際大学水田美術館	〒283-8555 千葉県東金市求名1	2001年4月7日	相当	—	047-553-2562	http://www.jiu.ac.jp/museum/	
千葉	47	城西国際大学薬草園(大多喜町薬草園)	〒298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜486	1987年10月1日	—	—	047-082-2165	http://www.jiu.ac.jp/yakusouen/	城西国際大学薬学部が管理運営を行なっている。
	48	千葉大学海洋バイオシステム研究センターこみなと水族館	〒299-5502 千葉県鴨川市内浦1	1932年	相当	—	—	—	
	49	千葉大学サイエンスプロムナード	〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学 理学部	2001年12月1日		—	043-290-2872	http://www.math.s.chiba-u.ac.jp/~nagisa/sp/index.html	
	50	千葉経済大学地域経済博物館	〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町3-59-5	2010年6月1日	相当	—	043-253-9111	http://www.cku.ac.jp/local/museum.html	
	51	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	〒299-5503 千葉県鴨川市天津770	1926年	類似	—	047-094-0621	—	

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設、博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
東京都	52	東京大学大学院薬学系研究科・薬学部附属薬用植物園	〒262-0018 千葉県千葉市花見川区畑町1-479	1973年4月1日	類似	—	043-273-7413	http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~oriharay/index.htm	
	53	東邦大学薬学部附属薬用植物園	〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1		類似	—	047-472-0666	http://www.lab2.toho-u.ac.jp/phar/yakusou/	
	54	日本大学薬学部附属薬用植物園	〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1				047-465-2111 (代表)	http://www.pha.nihon-u.ac.jp/kosei/kosei05.html/#01	
	55	日本大学理工学部科学技術史料センター	〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 5号館2階	2004年	相当	—	047-469-6372	http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/index.html	
	56	和洋女子大学文化資料館	〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1	1992年4月15日	相当	—	047-371-2494	http://www.wayo.ac.jp/facilities_campus/museum/tabid/553/Default.aspx	
	57	青山学院資料センター	〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25	1978年3月23日	類似	国登録有形文化財	—	—	
	58	学習院大学史料館	〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1	1975年2月26日	相当	国登録有形文化財	—	—	
	59	北里柴三郎記念室	〒108-8641 東京都港区白金5-9-1	1997年	—	—	—	—	
	60	国立音楽大学楽器学資料館	〒190-8520 東京都立川市柏町5-5-1	1988年	類似	—	—	—	
	61	國學院大學博物館	〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28	2013年 4月	相当	—	035-466-0104	http://www2.kokugakuin.ac.jp/kokogaku/index.html	
	62	国際基督教大学博物館湯銭八郎記念館	〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2	1982年6月1日	相当	—	042-233-3340	http://subsite.icu.ac.jp/yuasa_museum/	
	63	駒澤大学禅文化歴史博物館	〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学キャンパス内	2002年	相当	東京都選定歴史的建造物	—	—	
	64	実践女子学園香雪記念資料館	〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1	1999年5月19日	相当	—	042-585-8873	http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/	
	65	首都大学東京牧野標本館	〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6	1958年6月18日	—	—	042-647-1111	—	一般には非公開。
	66	昭和女子大学光薬博物館	〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57	1994年4月11日	相当	—	033-411-5099	http://museum.swu.ac.jp/	
	67	昭和大学薬学部薬用植物園	〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8		—	—	033-784-8000 (代表)	http://www10.showa-u.ac.jp/~mpgarden/	薬用植物園は旗の台キャンパス、富士吉田キャンパスに合計3ヶ所ある。
	68	昭和薬科大学薬用植物園	〒194-8543 東京都町田市東玉川学園3丁目3165番地	1990年	—	—	042-721-1585	http://www.shoyaku.ac.jp/j-home/yakuyou/default.html	
	69	女子美術大学美術館	〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 杉並キャンパス内1号館1階		相当	—	035-340-4500 (代表)	http://www.joshibinet/nike/index.html	
	70	朝鮮自然博物館	〒187-8560 東京都小平市小川町1-700 朝鮮大学校内	1982年			042-342-1331	http://www.korea-u.ac.jp/attached/naturalmuseum.htm	一般には非公開。
	71	朝鮮歴史博物館	同上	1982年			042-342-1331	http://www.korea-u.ac.jp/attached/historymuseum.htm	一般には非公開。
	72	津田塾大学津田梅子史料室	〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 津田塾大学 星野あい記念図書室2階	1981年4月2日	類似	—	042-342-5249	http://www.tsuda.ac.jp/about/history/data-room.html	
	73	電気通信大学UFCコミュニケーションミュージアム	〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1				043-443-5296	—	
	74	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1	1964年			042-330-5600	http://www.aa.tufs.ac.jp/	
	75	東京海洋大学海洋科学部附属水産資料館	〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学品川キャンパス内	1902年3月	相当		035-463-0430	http://www.s.kaiyodai.ac.jp/museum/public_html/	
	76	東京海洋大学海洋科学部附属百周年記念資料館	〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6 東京海洋大学越中島キャンパス内	1978年			035-245-7300	http://www.kaiyodai.ac.jp/academics/72/76.html	
	77	東京家政学院生活文化博物館	〒194-0292 東京都町田市相原町2600 東京家政学院大学内	1990年	相当		042-782-9814	http://muse-note.at.webry.info/	
	78	東京家政大学博物館	〒173-0003 東京都板橋区加賀1-18-1	1969年4月1日	相当		033-961-2918	http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/tabid/1346/index.php	
	79	東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室	〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8	1985年6月6日			050-5525-2381	http://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/	



都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づき登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	80	東京藝術大学大学美術館	〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8	1999年			050-5525-2200	http://www.geidai.ac.jp/museum/	
	81	東京工業大学地球史資料館	〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1				035-734-2618	http://www.geo.titech.ac.jp/lab/maruyama/MEE/	
	82	東京工業大学博物館	〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 百年記念館内	2011年4月1日	相当	—	035-734-3340	http://www.cent.titech.ac.jp/index.html	
	83	東京慈恵会医科大学医学情報センター標本館	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8				035-400-1200	http://www.jikei.ac.jp/academic/micer/hyohon.htm	一般には非公開。
	84	東京農業大学農業資料室	〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28				—	—	
	85	東京農業大学住江記念会館醸造博物館	同上				—	—	
	86	東京農業大学「食と農」の博物館	同上	2004年4月6日			035-477-4033	http://www.nodai.ac.jp/syokutonou/	
	87	東京農工大学畜力農機具資料室	〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16				—	—	
	88	東京農工大学科学博物館	同上	1952年	相当	国登録有形文化財	042-388-7163	http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html	
	89	東京薬科大学薬用植物園	〒192-0355 東京都八王子市堀之内1432-1				042-676-6609	http://www.toyaku.ac.jp/Plant/index_j.html	
	90	東京女子医科大学史料室・吉岡彌生記念室	〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学 医学部中央校舎2F	1966年			033-353-8111	http://www.twmu.ac.jp/home/founder/yayoi.html	
	91	東京造形大学附属横山記念マゼン美術館	〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556	1994年			042-637-8169	http://www.zokei.ac.jp/museum/	
	92	東京大学医科学研究所近代医科学記念館	〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1				033-443-8111	http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/memorialhall/	
	93	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場博物館	〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1	2003年			035-454-6139	http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/index.html	
	94	東京大学総合研究博物館	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内	1996年	類似	国指定重要文化財	035-841-8600	http://www.um.u-tokyo.ac.jp/	
	95	東京大学総合研究博物館小石川分館(建築ミュージアム)	〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1	2001年	類似	国指定重要文化財	035-777-8600 (代表)	http://www.um.u-tokyo.ac.jp/	2013年12月14日に「建築ミュージアム」としてリニューアルオープンしている。
	96	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	〒188-0002 東京都西東京市緑町1-1-8	1929年			042-461-1528	http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/	
	97	東京大学大学院理学研究科付属植物園小石川植物園	〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1	1877年	相当	国指定名勝及び史跡	033-814-0138	http://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/koishikawa/	園内の旧東京医学校本館が重要文化財となっている。
	98	東京理科大学近代科学資料館	〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3	1991年11月19日	相当	—	035-228-8224	http://www.tus.ac.jp/info/setubi/museum/	
	99	杉野学園衣裳博物館	〒141-8652 東京都品川区上大崎4-6-19	1957年5月24日	相当	—	036-910-4413	http://www.costumemuseum.jp/index.html	
	100	成蹊学園史料館	〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1	1988年11月18日	相当	—	042-237-3994	http://www.seikei.ac.jp/gakuen/archive/	
	101	成城大学民俗学研究所	〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20	1973年4月1日	類似	—	033-482-9097	http://www.seijo.ac.jp/minken/index.html	
	102	玉川大学小原國芳記念教育博物館	〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1	1969年8月16日	相当	—	042-739-8656	http://www.tamagawa.jp/campus/museum/	前身として1969年に教育博物館資料室が開設した。
	103	多摩美術大学美術館	〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1	2000年4月1日	相当	—	042-357-1251	http://www.tamabi.ac.jp/museum/default.htm	前身として1964年に附属美術参考資料館が開設した。

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づく登録博物館・博物館相当施設・博物館類 似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	104	日本女子大学成瀬記念館	〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1	1984年10月18日	相当	旧成瀬仁蔵住宅(日本女子大学成瀬記念館分館):文京区指定有形文化財	035-981-3376	http://www.jwu.ac.jp/unv/facilities/	西生田キャンパスには、成瀬記念館生田記念室がある。
	105	日本大学芸術学部芸術資料館	〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1	1993年12月1日	相当	—	035-995-8315	http://www.art.nihon-u.ac.jp/facilities/archives.html	
	106	文化学園服飾博物館	〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル	1979年11月1日			033-299-2387	http://museum.bunka.ac.jp/	
	107	野上記念法政大学能楽研究所	〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1	1952年4月1日			033-264-9815	http://noken.ws.hosei.ac.jp/index.html	
	108	星薬科大学薬用植物園	〒142-8501 東京都品川区荏原2-4-41				033-786-1011 (代表)	http://w01www01.hoshi.ac.jp/yakusoen_new/annai.html	
	109	武蔵学園記念室	〒176-8533 東京都練馬区豊玉上1-26-1 武蔵学園大講堂1階	1994年5月1日	類似	練馬区指定文化財「千川上水の記録」	035-984-3748	http://www.musashigakuen.jp/ayumi/kinenshitsu/index.html	
	110	武蔵野音楽大学江古田校地楽器博物館	〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1	1967年	相当		033-992-1410	http://www.musashino-music.ac.jp/gakuen/facilities/museum/index.html	
	111	武蔵野音楽大学バルナソス多摩楽器展示室	〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1	1993年			042-389-0711	http://www.musashino-music.ac.jp/gakuen/facilities/museum/index.html	
	112	武蔵野美術大学美術館・図書館	〒187-8505 東京都小平市小川町1-736	1967年 1月	—	—	042-342-6003	http://mauml.musabi.ac.jp/	
	113	武蔵野美術大学美術館・図書館民俗資料室	同上	1967年 1月	—	—	042-342-6006	http://folkart.musabi.ac.jp/index.html	
	114	明治学院歴史資料館	〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37	1998年	—	歴史資料館展示室(記念館1階):「記念館」東京都港区有形文化財 歴史資料館事務室(インプリー館1階):「インプリー館」国指定重要文化財	035-421-5170		
	115	明治大学博物館	〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学アカデミーコモン内	2004年	類似	—	033-296-4448	http://www.meiji.ac.jp/museum/	
	116	明治薬科大学附属薬用植物園	〒204-8488 東京都清瀬市野塩2-522-1				042-495-8611 (代表)	http://www.my-pharm.ac.jp/herb/index.html	
	117	明治薬科大学明薬資料館	同上	1982年11月23日	—	—	042-495-8942	http://www3.my-pharm.ac.jp/museum/main.html	
	118	立教学院展示館	同上	2014年5月9日	類似	東京都歴史的建造物	033-985-2758	http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/rikkyo_history/index.html	
	119	早稲田大学會津八一記念博物館	〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1	1998年5月1日	相当	東京都選定歴史的建造物(旧図書館)	035-286-3835	http://www.waseda.jp/aizu/index-j.html	
	120	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	同上	1928年10月28日	相当		035-286-1829	http://web.waseda.jp/enpaku/	
	121	早稲田大学ワセタギャラリー	〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 大隈記念タワー2階	2005年4月1日	—	—	033-203-9746	http://www.wasedabunka.jp/facility/gallery	
	122	税務大学校租税史料館	〒164-0014 東京都中野区南台3-45-13	1991年	—	—	035-340-1131 (代表)	http://www.sozeishiryokan.or.jp/	
神奈川	123	北里大学薬学部附属薬用植物園	〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1	1965年7月1日	相当	—			
	124	女子大学美術館	〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900 女子美術大学相模原キャンパス	2001年10月1日	相当	—	042-778-6111		

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づき、登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	125	女子美ガレリアニケ	同上		相当	—	035-340-4500 (代表)	http://www.joshibi.net/nike/index.html	
	126	帝京大学薬学部附属薬用植物園	〒199-0195 神奈川県相模原市相模湖町寸沢嵐1091-1					http://www.pharm.teikyo-u.ac.jp/lab2/yakuyo/	
	127	東京農業大学植物園	〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737				046-247-4335	http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php?mode=show&category=29	
	128	日本大学生物資源科学部博物館	〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866	1974年10月1日	相当	—	046-684-3892	http://www.brs.nihon-u.ac.jp/facilities/museum.html	
	129	フェリス女学院資料室	〒231-8660 神奈川県横浜市中区山手町178	1976年4月1日	—	—	045-662-4411	http://www.ferris.jp/history/siryu.html	
	130	東海大学松前記念館	〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117 東海大学湘南校舎	1983年11月1日	相当	—	046-358-1211	http://www.kinenkan.u-tokai.ac.jp/	
新潟	131	新潟大学旭町学術資料展示室	〒951-8122 新潟県新潟市中央区旭町通2-746	2001年4月1日	類似	国登録有形文化財	025-227-2260	http://www.lib.niigata-u.ac.jp/tenjikan/index.html	旧新潟師範学校記念館であり、現在は「あさひまち展示室」と通称される。
	132	新潟薬科大学附属薬用植物園	〒956-8603 新潟県新潟市秋葉区東島265-1 新潟薬科大学	1979年4月1日			025-025-5000	http://www.nupals.ac.jp/garden/	
	133	新潟薬科大学附属薬用植物園五頭分園	〒959-2092 新潟県阿賀野市岡山町10-5	1986年			025-062-2510 (代表)	http://www.nupals.ac.jp/garden/gozu/index.html	
	134	日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館	〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部内8号館2階	1989年9月1日	相当		025-267-1500	https://www.ngt.ndu.ac.jp/museum/index.html	
富山	135	富山大学薬学部附属薬用植物園	〒930-0194 富山県富山市杉谷2630	1923年			076-434-7590	http://www.pha.u-toyama.ac.jp/plant/garden_1.html	旧富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園。
	136	富山大学和漢医薬学総合研究所附属民族薬物研究センター民族薬物資料館	同上	1985年 7月	類似	—	076-434-7150	http://shiryokanhp.inm.u-toyama.ac.jp/wakan/mmmw/addition/add_index.html	旧富山医科薬科大学和漢薬研究所附属薬物解析センター民族薬物資料館。年に数回だけ一般に公開している。
石川	137	金沢大学資料館	〒920-1192 石川県金沢市角間町 金沢大学付属図書館内	1989年4月1日	—	—	—	—	
	138	金沢大学薬学部附属薬用植物園	〒920-1192 石川県金沢市角間町分子生薬学研究室				—	—	
	139	北陸大学薬学部附属薬用植物園	〒920-1181 石川県金沢市金川町ホ3	1975年4月1日			076-229-1165	http://yakusoen.hu.labos.ac/	
山梨	140	山梨大学赤レンガ館	〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37			登録有形文化財	055-220-8004	https://www.yamanashi.ac.jp/akarenga/	
	141	山梨大学水晶館	〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 大 学本部棟2階広報プラザ内	2005年4月1日			055-220-8004	—	
長野	142	信州大学志賀自然教育園	〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原	1966年	相当	—	026-934-2607	http://certcms.shinshu-u.ac.jp/shiga/index.html	
	143	文化学園北竜湖資料館	〒389-2322 長野県飯山市大字瑞穂7335				—	http://www.iiyama-catv.ne.jp/~h-sansou/myweb9_003.htm	
岐阜	144	岐阜大学教育学部郷土博物館	〒501-1112 岐阜県岐阜市柳戸1-1	1955年12月28日	相当	—	—	—	
	145	岐阜薬科大学薬草園	〒502-0801 岐阜県岐阜市椿洞字東辻ヶ内935	1971年			—	—	
	146	高山自動車短期大学飛騨自然博物館	〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155	1986年	類似	—	057-732-4440	http://www.takayamacollege.ac.jp/library/library_index.html	高山自動車短期大学の図書館1階にある。



都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づき登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
静岡	147	静岡県立大学薬草園	〒422-8526 静岡県静岡市谷田 52-1	1989年	—	—	054-264-5880	http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~yakusou/Botany_home.htm	薬草園で栽培されている多くの植物は、前身である静岡薬科大学の薬用植物園から移植されたものである。
	148	常葉学園歴史資料館・常葉学園創立者資料室	〒420-0911 静岡県葵区瀬名1-22-1	2000年4月1日	—	—	054-261-1356	https://www.tokoha.ac.jp/museum	
	149	常葉美術館	〒439-0019 静岡県菊川市半済1550	1977年6月1日	類似	—	053-735-0775	http://tokoha.net/museum/	
	150	東海大学海洋科学博物館	〒424-8620 静岡県静岡市清水区三保 2389	1970年5月2日	相当	—	054-334-2385	http://www.umi.muse-tokai.jp/	
	151	東海大学自然史博物館	同上	1981年10月	相当	—	054-334-2385	http://www.sizen.muse-tokai.jp/	
	152	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	〒415-0304 静岡県賀茂郡南伊豆町加納457	1943年1月14日	—	—	055-862-0021	http://www.ufa.u-tokyo.ac.jp/jyugei/	
愛知	153	愛知県立芸術大学芸術資料館	〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114	1973年4月1日	相当	—	056-162-1180 (代表)	http://aigei-artmuseum.blogspot.jp/	
	154	愛知県立芸術大学法隆寺金堂壁画模写展示館	同上	1989年4月1日	相当	—	056-176-2873	http://www.aichi-fam-u.ac.jp/facilities/horyuji.html	
	155	愛知大学総合郷土研究所	〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学内	1951年6月1日	類似	—	053-247-4160	http://www.aichi-u.ac.jp/kyodoken/	
	156	愛知大学中部地方産業研究所附属生活産業資料館	同上	1964年4月1日	相当	—	053-247-4140	http://www.chusanken.jp/index.html	1997年4月に中部地方産業研究所附属産業館から改称された。
	157	愛知大学東亜同文書院大学記念センター	同上	1998年5月9日		登録有形文化財	053-247-4139	http://www.aichi-u.ac.jp/orc/	
	158	中部大学民族史料博物館	〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200	1992年	相当	—	056-851-9194	http://www3.chubu.ac.jp/museum/	2011年4月27日に中部大学民族史料室から改称された。
	159	中京大学アートギャラリー C・スクエア	〒466-8666 愛知県名古屋市中区八事本町101-2	1994年10月8日			052-835-5669	http://www.chukyo-u.ac.jp/extension/gallery/	
	160	名古屋市立大学薬学部薬用植物園	〒467-8603 愛知県名古屋市長徳区田辺通3-1				052-836-3402	http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/yse/guide-j.html	一般に非公開。年数回の見学会を開催している。
	161	名古屋大学考古学陳列室	〒464-8601 愛知県名古屋市中区千種区不老町				—	—	
	162	名古屋大学古川記念館	同上	1969年			052-789-2115	http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/2skikakuka/campustosisetu/sisetu_syoukai.html	
	163	名古屋大学博物館	同上	2000年4月1日	類似	—	052-789-5767	http://www.num.nagoya-u.ac.jp/	
	164	名城大学薬用植物見本園	〒468-0073 愛知県名古屋市中区塩釜口1-501 (名城大学住所)				—	http://www-yaku.meijo-u.ac.jp/center/yakuyou.html	
	165	南山大学人類学博物館	〒466-8673 愛知県名古屋市中区山里町18	1949年			052-832-3111 (代表)	https://www.ic.nanzan-u.ac.jp/MUSEUM/	
三重	166	皇學館大学佐川記念神道博物館	〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704	1989年4月1日	類似	—	059-622-6471	http://www.kogakkan-u.ac.jp/hakubutukan/index.html	
滋賀	167	滋賀大学経済部付属史料館	〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1	1950年8月1日	相当	—	074-927-1046	http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/1	
京都	168	池坊短期大学むろまち美術館	〒603-8143 京都府京都市北区小山上総町 響流館1F 大谷大学キャンパス内	2003年10月13日	相当	—	075-351-8585	http://www.ikenobo-c.ac.jp/tandai/shisetsu.html	
	169	同志社大学新島遺品庫	〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社社史資料センター	1995年	—	—	075-251-3042	http://joseph.doshisha.ac.jp/ihinko/html/n01/n01010/N0101001G.html	

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づく登録博物館・博物館相当施設・博物館類 似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	170	同志社大学歴史資料館	〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3	1996年	相当	国指定重要文化財	077-465-7255	http://hmuseum.doshisha.ac.jp/	
	171	京都外国語大学国際文化資料館	〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 10号館4階	1991年5月27日	相当	—	075-864-8741	https://www.kufs.ac.jp/umc/index.html	
	172	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎御所海道町	1980年4月1日	相当	—	075-724-7924	http://www.museum.kit.ac.jp/	
	173	京都国際マンガミュージアム	〒604-0846 京都府京都市中京区烏丸通御池上ル (元龍池小学校)	2006年	相当	—	075-254-7414 (代表)	http://www.kyotomm.jp/	京都市と京都精華大学の共同事業である。
	174	京都嵯峨芸術大学附属博物館	〒616-8362 京都府京都市右京区嵯峨五島町1	2001年	相当	—	075-864-7898	http://www.kyoto-saga.ac.jp/about/museum/	
	175	京都市立芸術大学芸術資料館	〒610-1197 京都府京都市西京区大枝沓掛町13-6	1991年4月1日	相当	—	075-334-2232	http://w3.kcu.ac.jp/muse/	
	176	京都精華大学ギャラリーフロール	〒606-8588 京都府京都市左京区岩倉木野町137	1997年10月1日	相当	—	075-702-5291	https://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur/	
	177	京都造形芸術大学・京都芸術短期大学芸術館	〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116 人間館ギャラリー・オーブ2階	1997年9月1日	相当	—	075-791-9182	http://geijutsu-kan.com/	
	178	京都大学総合博物館	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町	1997年4月1日	相当	—	075-753-3272	http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/	
	179	京都大学百周年時計台記念館歴史展示室	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町	2003年	—	—	075-753-2285	http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/clocktower/	
	180	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所水産生物標本館	〒625-0086 京都府舞鶴市字長浜無番地	1972年	相当	—	077-362-5512	http://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/maizuru/	
	181	京都大学大学院理学研究科付属植物園	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町 吉田キャンパス	1923年4月1日	—	—	075-753-4090	http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/modules/tinycontent9/index.php?id=8	
	182	京都薬科大学附属薬用植物園	〒606-8501 京都府京都市左京区吉田下阿達町46-29	1973年4月1日	—	—	—	http://labo.kyoto-phu.ac.jp/mpgkpu/gmp-hpj.htm	
	183	花園大学歴史博物館	〒604-8456 京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1	2000年	相当	—	075-811-5181 (代表)	http://www.hanazono.ac.jp/museum	
	184	佛教大学宗教文化ミュージアム	〒616-8306 京都府京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26	2003年4月1日	—	—	075-873-3115	http://www.bukkyo-u.ac.jp/facilities/museum/	2008年に「仏教大学アジア宗教文化情報研究所」から改称された。
	185	立命館大学国際平和ミュージアム	〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1	1992年5月19日	相当	—	075-465-8151	http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum/index.html	
	186	立命館大学末川記念館	同上	1983年	—	—	075-465-8234	http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/suekawa/	
大阪	187	大阪青山歴史文学博物館	〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-11-1	1978年12月1日	相当	—	072-722-4165 (代表)	http://www.osaka-aoyama.ac.jp/facility/museum/	
	188	大阪大谷大学博物館	〒561-0841 大阪府豊中市名神口1-4-1 大阪音楽大学K号館	1980年	類似	—	072-124-1039	http://www.osaka-ohtani.ac.jp/facilities/museum/	
	189	大阪音楽大学音楽博物館	〒533-0011 大阪府大阪市東淀川区大桐2-8-11	2002年10月1日	類似	—	066-868-1509	http://www.daion.ac.jp/about/museum/	
	190	大阪経済大学70周年ギャラリー	〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469	2002年6月1日	相当	—	066-328-2431 (代表)	http://www.osaka-ue.ac.jp/life/gallery/	
	191	大阪芸術大学博物館	〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10	1983年	相当	国登録有形文化財	072-193-3781 (代表)	http://www.osaka-geidai.ac.jp/geidai/facilities/museum/	
	192	大阪商業大学商業史博物館	〒576-0004 大阪府交野市私市2000	1950年4月1日	相当	—	066-785-6139	http://moch.daishodai.ac.jp/index.html	
	193	大阪市立大学理学部附属植物園	〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20	2002年4月1日	—	国登録有形文化財	072-891-2059	http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/botan/	
	194	大阪大学総合学術博物館	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6	1974年4月1日	類似	—	066-850-6284	http://www.museum.osaka-u.ac.jp/	
	195	大阪大学大学院薬学研究科附属薬用植物園	〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1	1996年	登録	—	066-879-8144	http://www.phs.osaka-u.ac.jp/research/facility2.html	

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づき、登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	196	大阪薬科大学薬用植物園	同上				072-690-1093	http://www.oups.ac.jp/gakujutsu/shisetu/garden/	
	197	大谷大学博物館	〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15	2003年10月7日	相当	—	075-411-8483	http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/	
	198	関西大学博物館	〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35	1994年4月1日	相当	登録有形文化財	066-368-1171	http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/	
	199	近畿大学薬学部薬用植物園	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1 近畿大学本部キャンパス内	1954年	—	—	064-307-4040	http://www.phar.kindai.ac.jp/yakusouen/index.html	
	200	京都大学大学院農学研究科附属農場	〒569-1115 大阪府高槻市古曽部町2-30	1924年1月1日	類似	—	—	http://www.farm.kais.kyoto-u.ac.jp/	
	201	摂南大学薬学部附属薬用植物園	〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1	1983年			072-866-3136	http://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/index.htm	
兵庫	202	追手門学院大学附属図書館 宮元輝ミュージアム	〒666-0113 兵庫県川西市長尾町10-1	1999年4月29日	相当	—	072-641-9639	http://www.oullib.otemon.ac.jp/teru/	
	203	関西学院グリーンクラブ資料館	〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155	2000年10月1日	—	—	—	—	
	204	関西学院大学博物館開設準備室	同上	2008年			079-854-6054	http://museum.kwansei.ac.jp/	
	205	神戸大学海事博物館	〒658-0022 兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1	1973年	類似	—	078-431-3564	http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/	
	206	神戸大学百年記念館	〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	2001年1月27日			078-881-1212	http://www.kobe-u.ac.jp/index.html	
	207	神戸大学山口誓子記念館	同上	2001年1月1日			078-803-5393	http://www.office.kobe-u.ac.jp/ksui-yamaguchiseishi/	
	208	神戸薬科大学薬用植物園	〒658-8558 兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1	1935年	—	—	078-441-7514	http://www.kobepharma-u.ac.jp/~yakusyok/	
	209	流通科学大学中内功記念館	〒651-2188 兵庫県神戸市西区学園西町3-1	2006年9月19日			078-794-3555	http://www.umds.ac.jp/nakauchi/index.html	
	210	流通科学大学流通資料館	同上				078-794-2130	http://www.umds.ac.jp/facility/mdsa/index.html	
奈良	211	帝塚山大学附属博物館	〒631-8501 奈良県奈良市帝塚山7-1-1	2004年1月30日	相当	—	074-248-9700	http://www.tezukayama-u.ac.jp/museum/index.html	
	212	天理大学付属天理参考館	〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250	1930年4月28日			074-363-8414	http://www.sankokan.jp/	
	213	奈良教育大学教育資料館	〒630-8528 奈良県奈良市高畑町	1992年4月16日			074-227-9797	http://www.nara-edu.ac.jp/LLB/siryokan.htm	
	214	奈良女子大学記念館	〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町	1909年10月1日			074-220-3220	http://koto.nara-wu.ac.jp/kinenkan/	
和歌山	215	京都大学フィールド科学教育研究センター 海城ステーション 瀬戸臨海実験所 (京都大学白浜水族館)	〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459	1930年6月1日	相当	—	073-942-3515	http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/aquarium/	
鳥取	216	鳥取短期大学併美術館	〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854	1998年4月9日	類似	—	085-826-1811	http://www.cygnus.ac.jp/local/kasuri.html	
島根	217	島根大学ミュージアム	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学構内	2006年4月1日	—	—	085-232-6496	http://museum.shimane-u.ac.jp/index.html	ミュージアム本館、山陰地域・汽水域資料展示室、古代出雲文化資料調査室に分かれている。サテライトミュージアムとして島根大学旧奥谷宿舎がある。1994年から2005年まで「埋蔵文化財調査研究センター」として活動していた。
岡山	218	岡山大学資源植物科学研究所	〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-20-1	1914年	—	—	086-424-1661 (代表)	http://www.rib.okayama-u.ac.jp/index-j.html	2010年に岡山大学資源植物科学研究所から改組された。
	219	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	〒700-8530 岡山県岡山市津島中3-1-1	1987年11月1日	—	—	086-251-7290	http://www.okayama-u.ac.jp/user/arc/archome.html	



都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づき登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	220	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科附属薬用植物園	〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1-1-1	1978年4月1日		—	086-251-7926	http://pharm.okayama-u.ac.jp/lab/yakusou/home.html	
	221	岡山理科大学自然植物園	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1	1996年4月1日		—	086-256-8462	http://okaridai.ous.ac.jp/garden/	
	222	加計美術館	〒710-0046 岡山県倉敷市中央1-4-7	2002年11月1日	類似	—	—	http://www.kake.ac.jp/kakebi/index.html	
	223	川崎医科大学現代医学教育博物館	〒701-0192 岡山県倉敷市松島577	1981年5月1日	相当	—	086-462-1111 (代表)	http://www.kawasaki-m.ac.jp/mm/html/index.html	
	224	ノートルダム清心女子大学博物館学ホール	〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町2-16-9			—	086-252-2187 gakugei@post.ndsu.ac.jp	—	
広島	225	海上保安資料館	〒737-0832 広島県呉市若葉町5-1 海上保安大学校内	1980年	—	—	082-321-4961 (代表)	https://www.jcga.ac.jp/shiryokan/shiryokan.html	
	226	広島女学院歴史資料館	〒732-0063 広島県広島市東区牛田東4-13-1	1988年10月1日		—	082-228-0386	—	
	227	広島市立大学芸術資料館	〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東3-4-1	1994年4月1日		—	082-830-1507	http://www.hiroshima-cu.ac.jp/inst/museum.html	
	228	広島大学医学部医学資料館	〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3	1978年11月2日	類似	—	082-257-5099 ishiryo@hiroshima-u.ac.jp	http://www.hiroshima-u.ac.jp/med/facility-02/	
	229	広島大学薬学部附属薬用植物園	同上			—	082-257-5333	http://www.hiroshima-u.ac.jp/pharm/facilities/	
山口	230	山口大学経済学部商品資料館	〒753-8511 山口市吉田1677-1	1995年		—	—	http://www.econo.yamaguchi-u.ac.jp/shohinkan.php	
	231	山口大学埋蔵文化財資料館	同上	1978年	類似	—	083-933-5035 yuam@yamaguchi-u.ac.jp	http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/	
	232	梅光学院大学博物館	〒750-8511 山口県下関市向洋町1-1-1	1994年 (前身の「梅光学院大学附属資料館」開館)/2001年 (「梅光学院大学博物館」へ改称)	相当	—	083-227-1070	http://www.baiko.ac.jp/university/museum	
徳島	233	徳島大学薬学部附属医薬創製教育研究センター	〒770-8505 徳島市庄町1-78-1			—	088-633-7245	http://www.tokushima-u.ac.jp/ph/graduate_school/center/	
	234	徳島文理大学薬学部附属薬用植物園	〒770-8514 徳島県徳島市山城町西浜傍示180			—	088-602-8000	http://kp.bunri-u.ac.jp/laboratory/medical_herb.html	
福岡	235	九州産業大学美術館	〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1	2002年4月1日	相当	—	092-673-5160	http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/index.html	
	236	九州大学総合研究博物館	〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1	2000年4月1日	相当	—	092-642-4252	http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/	
	237	九州大学大学院薬学研究附属薬用植物園	〒811-2415 福岡県糟屋郡篠栗町津波黒大浦394 九州大学附属演習林 (福岡演習林) 内	1974年4月11日	類似	—	092-641-1151	http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/sougou/medicinalherbgarden.php	
	238	西南学院大学博物館	〒814-8511 福岡県福岡市早良区西新3-13-1	2006年4月	相当	県登録有形文化財	092-823-4785	http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/	
佐賀	239	佐賀大学美術館	〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄1	2013年10月1日	類似	—	095-228-8333	http://suam102.com/	
長崎	240	長崎純心大学博物館	〒852-8558 長崎県長崎市三ツ山町235	1982年4月1日		—	095-846-0084	http://www.n-junshin.ac.jp/univ/museum/museum_body.htm	
	241	長崎大学熱帯医学研究所	〒852-8523 長崎県長崎市坂本1-12-4	1942年 (資料館は1974年設置)	類似	—	095-819-7800 (代表) soumu_nekken@ml.nagasaki-u.ac.jp	http://www.fm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/	

都道府県	No.	館名	住所	設立年月日	分類 (博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設・博物館類似施設の分類)	建物指定	電話番号	ホームページ URL	備考
	242	長崎大学薬学部附属薬用植物園	〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻 薬用植物学研究室		類似	—	095-819-2462 morio@nagasaki-u.ac.jp (代表)	http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/plant/doc/plant%20garden/mainpage1.html	
熊本	243	熊本学園大学産業資料館	〒862-8680 熊本県熊本市中央区大江2-5-1	2004年1月15日	類似	登録有形文化財	096-364-5161 (代表) 096-363-1289 (FAX、代表) soumu@kumagaku.ac.jp	http://www3.kumagaku.ac.jp/institute/hmi/	
	244	熊本大学工学部研究資料館	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1	1977年10月1日	相当	国指定重要文化財	096-342-3513 szk-somu@jimukumamoto-u.ac.jp	http://www.tech.eng.kumamoto-u.ac.jp/kenkyushiryokan/info_02.html	
	245	熊本大学五高記念館	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1	1993年10月9日		国指定重要文化財	096-342-2050 goko@gpo.kumamoto-u.ac.jp	http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp/index.html	
	246	熊本大学肥後医育記念館	〒860-0811 熊本県熊本市本荘2-2-1 医学部内	1976年			096-344-2111	http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/rekishimap	
	247	熊薬ミュージアム(宮本記念館)	〒862-0973 熊本県熊本市中央区大江本町5-1	2006年4月1日			096-371-4635 (薬学部代表)	http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/museum/	
	248	山崎記念館	〒860-0811 熊本県熊本市本荘1-1-1			登録有形文化財	096-342-2213	http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/rekishimap	旧熊本医科大学図書館。
大分	249	NBU 旧宣教師館 キャラハン邸	〒874-0397 大分県大分市市木1727	1993年			097-592-1600 (代表)	http://www.nbu.ac.jp/education/facilities/other.php	
	250	別府大学附属博物館	〒874-0915 大分県別府市桜ヶ丘5-2 (新館) 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 (本館)	1977年7月1日	相当	—	097-727-6116 (新館) 097-767-0101 (本館)	http://www.bepu-u.ac.jp/research/institutions/museum/	
宮崎	251	宮崎大学農学部附属農業博物館	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1	1935年10月1日	相当	—	0985-58-2898 a-museum@cc.miyazaki-u.ac.jp	http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/	
鹿児島	252	鹿児島国際大学国際文化学部博物館 実習施設 考古学ミュージアム	〒891-0197 鹿児島県鹿児島市坂之上8-34-1	2002年4月1日	相当	—	099-261-3211	http://www.iuk.ac.jp/museum/	
	253	鹿児島大学総合研究博物館	〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30	2001年4月1日	相当	国登録有形文化財	099-285-8141	http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/	
沖縄	254	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4		類似	—	098-882-5038 okigei-artmuseum@okigei.ac.jp	http://www.lib.okigei.ac.jp/lib.html	
	255	琉球大学資料館(風樹館)	〒903-0129 沖縄県中頭郡西原町字千原1	1985年			098-895-8841 fujukan@agr.u-ryukyu.ac.jp	http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/index.php	

西南学院大学博物館事業報告 I

# 大学博物館連携事業

—官学・産官学連携事業実践報告

発行日 2015(平成27)年3月31日

編者 安高 啓明  
内島美奈子

発行 西南学院大学博物館  
〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号

印刷 株式会社 インテックス福岡